

鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	総合イノベーション工学実験
科目基礎情報				
科目番号	0005	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合イノベーション工学専攻 (環境・資源コース)	対象学年	専1	
開設期	通年	週時間数	1	
教科書/教材	教科書: 実験テーマ毎にテキスト (実験手引き書) 等を配布する。			
担当教員				
到達目標				
実験において用いられた専門用語および代表的な実験手法を理解し、データ整理と結果に対する適切な考察を論理的にまとめて報告することができるとともに、専門分野以外の分野の実践的技術の体験を通して必要な基礎的知識を身に付けた上で、習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し、習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進め、成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論することができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	責任感を持ってグループ内で協調して他分野の実験に取り組み、他分野の実験についての的確な図や文章を用いて報告できる。	グループ内で協調して他分野の実験に取り組み、他分野の実験について図や文章を用いて報告できる。	他分野の実験に取り組むことができず、他分野の実験について図や文章を用いて報告できない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	他分野の技術を各自の専門領域に生かし、より発展させるために、他分野の実践的実験技術を体験し身に付ける。機械工学、電気電子工学、電子情報工学、生物応用化学、材料工学に関する基礎的実験を行う。前期は中学生向けの理科教材の開発に取り組み、その実現のために解決すべき課題の発見とその解決法のデザインを体験する。後期は緩やかな制約条件の下でのものづくりに取り組み、その実現のために解決すべき課題の発見とその解決法のデザインを体験する。これらの過程を通して、技術者としてのモチベーション (意欲、情熱、チャレンジ精神など) を涵養し、これまで学んできた学問・技術の応用能力、課題設定力、創造力、継続的・自律的に学習できる能力、プレゼンテーション能力を育成する。なお、理科教材の開発、各テーマにおける実験・製作では、企業でものづくりに関わってきた2人の技術講師が、ものづくりについて実践的なアドバイスをいながら実習を実施する。			
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は、学習・教育到達目標(B)&lt;専門&gt;&lt;展開&gt;に対応する。</li> <li>授業計画に記載のテーマについて、個人あるいは、数名で構成した班に分かれて実験や製作を行う。</li> <li>「授業計画」における各週の「達成目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。</li> </ul>			
注意点	<p>&lt;到達目標の評価方法と基準&gt;前期①～③の実験テーマに関する達成目標1～3の達成度を報告書の内容により評価する。また、④理科教材の開発に関する達成目標4～8の到達度を発表の内容と作品により評価する。評価の重みは①～③の実験を70%、④理科教材の開発を30%とする。後期は、達成目標9～14の達成度を発表(30%)、報告書(50%)および作品(20%)により評価する。発表や報告書に求めるレベルは、100点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。</p> <p>&lt;学業成績の評価方法および評価基準&gt;基礎的実験において各自に課せられた実験操作 作業およびレポートを30%、理科教材の開発における発表と作品を30%、各テーマにおける実験・製作の発表と報告書と作品を40%として100点満点で学業成績を評価する。</p> <p>&lt;単位修得要件&gt;与えられた実験テーマの報告書を全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p> <p>&lt;備考&gt;実験の計画・実施に当たっては、必ず指導教員に報告し、その指導に従うこと。器具・装置の使用に当たっては、指導教員から指示された注意事項を守る。また、本教科は2年次工学実験と深く関係する教科である。</p>			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	生物応用化学実験(1) (安全講習)	1. 専門分野以外の分野の基礎的知識を自主的な学習により身に付けることができる。 2. 他分野の実験技術を体験し、その技術や考え方を理解できる。 3. 行った基本的な実験等について、目的・結果・考察をまとめ、レポートにすることができる。	
	2週	生物応用化学実験(2)	上記、1、2、3	
	3週	電子情報工学実験(1)	上記、1、2、3	
	4週	電子情報工学実験(2)	上記、1、2、3	
	5週	理科教材の開発① (ガイダンス・テーマ説明, 班決定)	4. 理科教材の開発を進める上で準備すべき事柄を認識し、継続的に学習することができる。 5. 理科教材の開発を進める上で解決すべき課題を把握し、その解決に向けて自律的に学習することができる。 6. 理科教材の開発のゴールを意識し、計画的に開発を進めることができる。 7. 理科教材の開発を進める過程で自ら創意・工夫することができる。	
	6週	理科教材の開発② (アイデア発表)	上記、4、5、6、7	
	7週	材料工学実験(1)	上記、1、2、3	
	8週	材料工学実験(2)	上記、1、2、3	
	9週	機械工学実験(1)	上記、1、2、3	
	10週	機械工学実験(2)	上記、1、2、3	
	11週	理科教材の開発③ (製作)	上記、4、5、6、7	
	12週	理科教材の開発④ (製作)	上記、4、5、6、7	
	13週	理科教材の開発⑤ (製作)	上記、4、5、6、7	

## 総合イノベーション工学実験シラバス

後期		14週	理科教材の開発⑥（製作）	上記、4、5、6、7
		15週	理科教材の開発⑦（発表会）	8. 理科教材の開発の発表会において、理解しやすく工夫した発表をすることができ、的確な討論をすることができる。
		16週		
	3rdQ	1週	電気電子工学実験(1)	上記、1、2、3
		2週	電気電子工学実験(2)	上記、1、2、3
		3週	各テーマにおける実験・製作①（ガイダンス・テーマ説明，班決定）	9. 各テーマにおける実験・製作を進める上で準備すべき事柄を認識し、継続的に学習することができる。 10. 各テーマにおける実験・製作を進める上で解決すべき課題を把握し、その解決に向けて自律的に学習することができる。 11. 各テーマにおける実験・製作のゴールを意識し、計画的に仕事を進めることができる。 12. 各テーマにおける実験・製作を進める過程で自ら創意・工夫することができる。
		4週	各テーマにおける実験・製作②（班ごとにテーマ・作業スケジュール等検討，順次作業等始める）	上記、9、10、11、12
		5週	各テーマにおける実験・製作③	上記、9、10、11、12
		6週	各テーマにおける実験・製作④	上記、9、10、11、12
		7週	各テーマにおける実験・製作⑤	上記、9、10、11、12
		8週	各テーマにおける実験・製作⑥	上記、9、10、11、12
	4thQ	9週	各テーマにおける実験・製作⑦	上記、9、10、11、12
		10週	各テーマにおける実験・製作⑧	上記、9、10、11、12
		11週	各テーマにおける実験・製作⑨	上記、9、10、11、12
		12週	各テーマにおける実験・製作⑩	上記、9、10、11、12
		13週	各テーマにおける実験・製作⑪	上記、9、10、11、12
14週		各テーマにおける実験・製作⑫（発表会）	13. 各テーマにおける実験・製作の発表会において、理解しやすく工夫した発表をすることができ、的確な討論をすることができる。	
15週		各テーマにおける実験・製作⑬（報告書の作成・提出）	14. 各テーマにおける実験・製作の報告書を論理的に記述することができる。	
16週				

## モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	前期レポート	前期教材開発・発表・作品	後期発表	後期報告書	作品	合計
総合評価割合	35	15	15	25	10	100
配点	35	15	15	25	10	100

## グローバル・リーダー論シラバス

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	グローバル・リーダー論
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	総合イノベーション工学専攻 (環境・資源コース)		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	無				
担当教員	[REDACTED]				
到達目標					
グローバル・リーダーが身につけるべき素養・資質について、基礎的な知識を学習するとともに、グローバル・リーダーのあり方について、自らの考えを形成するとともに、グループ討議等を通じ、ブラッシュアップを図り、自らのグローバル・リーダー論を展開する能力の向上を図る。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	グローバル・リーダーが身につけるべき素養・資質について具体的に説明できる。		グローバル・リーダーが身につけるべき一般的な素養・資質について説明できる。		グローバル・リーダーが身につけるべき素養・資質について説明できない。
評価項目 2	具体的なグローバル・リーダーの在り方について説明できる。		一般的なグローバル・リーダーの在り方を説明できる。		グローバル・リーダーの在り方を説明できない。
評価項目 3	自らの目指すグローバル・リーダー論を展開し、発言や行動につなげることができる。		自らの目指すグローバル・リーダー論を展開することができる。		自らの目指すグローバル・リーダー論を展開することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	世界規模ないし地球規模の視野を持って、産業界、学界、官界等の多様な分野において、ダイバーシティを尊重しつつ、リーダーとして国内外を問わず活動できる人材の育成を目指す取り組みの一環として、国際的な活動経験ならびにグローバル展開に関する高い識見を有する講師から、自らの経験・考え方についての講義を聴き、つづいてその講義の中で提示されたテーマに基づき、グループ討議を行い、グローバル・リーダーとしての資質を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての内容は、学習・教育到達目標(A)&lt;視野&gt;&lt;技術者倫理&gt;に対応する。</li> <li>授業は講義形式で行う。講義中は集中して聴講する。</li> <li>「授業目標」における各週の「到達目標」はこの授業で修得する「知識・能力」に相当するものとする。</li> </ul>				
注意点	<p>&lt;到達目標の評価方法と基準&gt;下記授業計画の「到達目標」の到達度の確認は各テーマごとのレポート、ディスカッション、および発表会での発表内容および最終レポートによって評価する。</p> <p>&lt;学業成績の評価方法および評価基準&gt;(各テーマごとのレポート、ディスカッション等10点)×5テーマ=50点満点、発表会における発表25点満点および最終レポート25点満点。</p> <p>&lt;単位修得要件&gt;与えられた各テーマごとのレポートならびに最終レポートをすべて提出し、発表会で発表し、100点満点で60点以上。</p> <p>&lt;あらかじめ要求される基礎知識の範囲&gt;特になし。</p> <p>&lt;自己学習&gt;授業で保証する学習時間と、予習・復習、課題の準備、レポート作成、プレゼンテーション作成に必要な標準的な学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。</p> <p>&lt;備考&gt;この科目では、技術者としての専門知識を学ぶのではなく、様々な分野においてグローバルに活躍できる技術者に要求される素養・資質を理解し、グローバル・リーダーとして、どうあるべきかについての自らの考えを構築することが重要になる。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	「グローバル・リーダー論」のねらいと進め方について	1. 「グローバル・リーダー論」のねらいと進め方について説明できる。	
		2週	グローバル・リーダー論 (西岡先生)	2. グローバル・リーダー (GL) の資質や役割を説明できる。	
		3週	グローバル・リーダー論 (西岡先生)	上記2に同じ。	
		4週	グローバル・リーダー論 (大井先生)	上記2に同じ。	
		5週	グローバル・リーダー論 (大井先生)	上記2に同じ。	
		6週	グローバル・リーダー論 (瀧本先生)	上記2に同じ。	
		7週	グローバル・リーダー論 (瀧本先生)	上記2に同じ。	
	8週	グローバル・リーダー論 (齊藤先生)	上記2に同じ。		
	4thQ	9週	グローバル・リーダー論 (齊藤先生)	上記2に同じ。	
		10週	グローバル・リーダー論 (渋谷先生)	上記2に同じ。	
		11週	グローバル・リーダー論 (渋谷先生)	上記2に同じ。	
		12週	グローバル・リーダー論 (市坪先生)	上記2に同じ。	
		13週	グローバル・リーダー論 (市坪先生)	上記2に同じ。	
		14週	グローバル・リーダー論発表会	3. 自身の目指すグローバル・リーダー像について、プレゼンテーションにより説明できる。	
		15週	グローバル・リーダー論発表会	上記3に同じ。	
16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	テーマごとのレポート, ディスカッション	最終発表および最終レポート	合計
総合評価割合	50	50	100
配点	50	50	100

## 国際インターンシップシラバス

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	国際インターンシップ I	
科目基礎情報						
科目番号	0024		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	総合イノベーション工学専攻 (環境・資源コース)		対象学年	専1		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き					
担当教員						
到達目標						
国際的に活躍できる技術者が経験する実務上の問題点と課題を体験し, 体験したことを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えられる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	技術者が経験する実務上の問題点と課題を体験する。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は, 学習・教育到達目標(A)&lt;視野&gt;, (B)&lt;専門&gt;&lt;展開&gt;, (C)&lt;英語&gt;に対応する。</li> <li>「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。</li> <li>次のインターンシップ機関(以下, 実習機関), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 日報, 報告書, 発表資料を作成し, 発表を行う。</li> <li>【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関あるいは国立高等専門学校機構の主催する海外インターンシップ先とする。</li> <li>【内容】専攻科生が従事できる実務のうち, 国際インターンシップの目的にふさわしい業務</li> <li>【期間】1週間以上の期間実施した場合において, 実働10日以上19日以下</li> <li>【日報】毎日, 日報を作成すること。</li> <li>【課題】インターンシップ終了後に, 報告書を作成し提出すること。</li> <li>【発表】専攻科分科会で定める時期にインターンシップ発表会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表を行うこと。</li> </ul>					
注意点	<p>&lt;到達目標の評価方法と基準&gt;下記授業計画の「到達目標」1~6の習得具合を勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表の項目を総合して評価する。評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである。</p> <p>&lt;学業成績の評価方法および評価基準&gt;「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って, 勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表により成績を評価する。</p> <p>&lt;単位修得要件&gt;総合評価で「可」以上を取得すること。</p> <p>&lt;あらかじめ要求される基礎知識の範囲&gt;心得(時間の厳守(10分前集合), 挨拶, お礼など)</p> <p>&lt;レポートなど&gt;日報は, 毎日, 作成し, 報告書も作成し, 実習指導責任者の検印を受けて, インターンシップ終了後に, 2年学生は専攻主任に, 1年学生は専攻副主任に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。</p> <p>&lt;備考&gt;インターンシップの内容は, 専攻科生が従事できる実務のうち, 国際インターンシップの目的にふさわしい業務であること。実習機関の規則を厳守すること。評定書を最終日に受け取ったら, 2年学生は専攻主任または1年学生は専攻副主任に提出すること。インターンシップの手引き, 筆記用具, メモ帳(手帳), 日報, 実習先から指定されている物, 評定書を持参すること。</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週		1. 国際的に活躍できる技術者が経験する実務上の問題点を体験することができる。		
		2週		2. 実践的国際感覚が分かり, それらを体得できる。		
		3週		3. 体験したことを日報にまとめることができる。		
		4週		4. 体験したことを報告書にまとめることができる。		
		5週		5. 体験したことを発表資料にすることができる。		
		6週		6. 体験したことを発表し, 質疑応答することができる。		
	2ndQ	7週				
		8週				
		9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				

## 国際インターンシップシラバス

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

## モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		国際インターンシップ評価基準		合計	
総合評価割合		100		100	
配点		100		100	

# 工学教育とアントレプレナーシップ 教育の融合

SUZUKA CIRCUIT

## 「高専グローバル・キャンプ」 におけるPBL教育の実践

鈴鹿工業高等専門学校

○白下 隆司 マイケル・ローソン

# KOSEN Global Camp 実施報告

鈴鹿工業高等専門学校

国際交流室長

日下 隆司



**フィンランドの学生達と英語漬けのキャンプ!**

## 2023 鈴鹿高専 グローバル キャンプ

**スタートアップ先進国フィンランド・トゥルク応用科学大学の学生と一緒にテクノロジーを用いた起業のためのビジネスプランを考えよう!**

**内容:**  
基調講演、フィンランドのスタートアップ事情についての講演、**ワークショップ**、ものづくり実習、学外研修旅行!  
ビジネスプラン作成のための**事前研修**もあり!!

<p><b>研修日程:</b> 令和5年8月12日(土) ~8月19日(土)(8日間)</p> <p><b>対象学年:</b> 本科4, 5年生及び専攻科生</p> <p><b>募集人数:</b> 日本人学生15名、留学生10名</p>	<p><b>参加費用:</b> 1万円(学内での朝昼夕食代)</p> <p><b>募集〆切:</b> 令和5年7月13日(木)</p> <p><b>参加申込方法:</b> 以下のFormsより登録。 <a href="https://forms.office.com/r/i2pYkSceRZ">https://forms.office.com/r/i2pYkSceRZ</a></p> <p>鈴鹿高専グローバルキャンプ参加申込</p> 
--	--

**備考:**  
鈴鹿高専までの交通費、宿泊代、モノづくり実習費等、学外研修旅行費用は**支給**(但し旅行中の食事は含まない)

 問合せ先: 鈴鹿高専 総務課総務企画係: eメール: [somu@jim.suzuka-ct.ac.jp](mailto:somu@jim.suzuka-ct.ac.jp)  
電話番号: 059-368-1711



# 表彰状

一般部門

分野別優秀賞(学生生活指導分野)

鈴鹿工業高等専門学校



殿

顕彰題目

アントレプレナリシップを持ったグローバル  
エンジニア育成教育の実践

あなたは独立行政法人国立高等専門学校機構  
主催による令和五年度国立高等専門学校  
教員顕彰の審査において教育業績等が  
顕著な教員として認められましたので  
ここにその功績をたたえ表彰します

令和六年四月二十三日

独立行政法人国立高等専門学校機構

理事長 谷口 功



[アクセス](#)[お問い合わせ](#)[パンフレット](#)

## NEWS・イベント

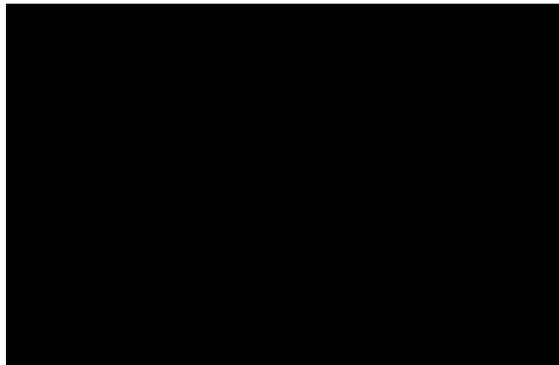
[ホーム](#) [NEWS・イベント](#) [イベント](#) [みえまちキャンパス](#)  
「みえまちキャンパス in 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部」を開催しました！...

### 「みえまちキャンパス in 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部」を開催しました！

2024年3月8日 / みえまちキャンパス

2024年2月22日（木）「みえまちキャンパスin 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部」を開催しました。今年度は4年ぶりの対面開催となり、5団体の学生たちが参加し、プレゼンテーションとパネル展示による発表、参加校学生による意見交換会・交流会を行いました。

はじめに、開催校の学校法人享栄学園 ████████ 学園長より開会のご挨拶をいただき、審査員と発表団体の紹介がありました。



学校法人享栄学園 ████████ 学園長

続いて、プレゼンテーション発表、パネル展示発表を行いました。発表ではそれぞれの活動に対して、来場者や審査員から質疑や激励のコメントも活発に飛び交いました。

#### ●プレゼンテーション

### アーカイブ

> 2025

> 2024

> 2023

> 2022

> 2021

> 2020

> 2019

> 2018

> 2017

### カテゴリー

> お知らせ

> リカレント教育

> ダイバーシティ

> FD/SD

> みえまちキャンパス



Gift of Ise プロデュースプロジェクト (皇學館大学)



ラグビー部 (鈴鹿工業高等専門学校)



研究室 (鳥羽商船高等専門学校)



こどもボランティア部 (鈴鹿大学)



ゼミ (鈴鹿大学短期大学部)

●パネル展示



ラグビー部 (鈴鹿工業高等専門学校)



研究室 (鳥羽商船高等専門学校)



こどもボランティア部（鈴鹿大学）

審査員による採点及び来場者の投票により、表彰された受賞団体は次のとおりです。

#### プレゼンテーション部門

最優秀賞：ラグビー部（鈴鹿工業高等専門学校）

優秀賞：こどもボランティア部（鈴鹿大学）

優秀賞：南谷ゼミ（鈴鹿大学短期大学部）

#### パネル展示部門

ベストパネル賞：■■■研究室（鳥羽商船高等専門学校）

当日は参加校学生による意見交換会・交流会も開催し、学生同士で交流を深めることが出来ました。また、企画・運営は、開催校である鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の教職員及び学生による企画・運営により行われました。



閉会後の集合写真

「みえまちキャンパス」に参加していただいた学生団体の皆様、審査員の方々、ありがとうございました。

三重大学

四日市大学

皇學館大学

鈴鹿大学

鈴鹿医療科学大学

三重県立看護大学

四日市看護医療大学

鈴鹿大学短期大学部

津市立三重短期大学

高田短期大学

ユマニテク短期大学

鈴鹿工業高等専門学校

鳥羽商船高等専門学校

近畿大学工業高等専門学校

三重県



NEWS・イベント

コンソーシアムみえとは

活動内容

地域貢献活動

単位互換

三重創生ファンタジスタ

リカレント教育プラットフォームみえ

### 高等教育コンソーシアムみえ 事務局

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577（三重大学内）  
電話：059-231-9969 FAX：059-231-9058



アクセス



お問い合わせ



高等教育

コンソーシアムみえ

Higher Education Consortium Mie

		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		インターンシップ評価基準	合計		
総合評価割合		100	100		
配点		100	100		

## インターンシップⅡシラバス

鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	令和07年度 (2025年度)	授業科目	インターンシップⅡ	
科目基礎情報					
科目番号	0022	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	総合イノベーション工学専攻 (環境・資源コース)	対象学年	専1		
開設期	集中	週時間数			
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き				
担当教員					
到達目標					
技術者が経験する実務上の問題点と課題を体験し, 体験したことを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝える。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技術者が経験する実務上の問題点と課題を体験する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は, 学習・教育到達目標(B)&lt;専門&gt;&lt;展開&gt;, JABEE 基準1(2)に対応する。</li> <li>「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。</li> <li>次のインターンシップ機関(以下, 実習機関), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 日報, 報告書, 発表資料を作成し, 発表を行う。</li> <li>【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関。ただし, 専攻科2年次の就職内定者については, 内定先企業等への実習とする。</li> <li>【内容】専攻科生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務</li> <li>【期間】2週間以上の期間実施した場合において, 実働10日以上</li> <li>【日報】毎日, 日報を作成すること。</li> <li>【課題】インターンシップ終了後に, 報告書を作成し提出すること。</li> <li>【発表】夏季休暇後にインターンシップ発表会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表を行うこと。</li> </ul>				
注意点	<p>&lt;到達目標の評価方法と基準&gt;下記授業計画の「到達目標」1~5の習得具合を勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表の項目を総合して評価する。評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである。</p> <p>&lt;学業成績の評価方法および評価基準&gt;「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って, 勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表により成績を評価する。</p> <p>&lt;単位修得要件&gt;総合評価で「可」以上を取得すること。</p> <p>&lt;あらかじめ要求される基礎知識の範囲&gt;心得(時間の厳守(10分前集合), 挨拶, お礼など)</p> <p>&lt;レポートなど&gt;日報は, 毎日, 作成し, 報告書も作成し, 実習指導責任者の検印を受けて, インターンシップ終了後に専攻科長補佐に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。</p> <p>&lt;備考&gt;インターンシップの内容は, 専攻科生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務であること。専攻科2年次の就職内定者については, 内定先企業等への実習であること。実習機関の規則を厳守すること。</p> <p>・評定書を最終日に受け取ったら, 専攻科長補佐に提出すること。インターンシップの手引き, 筆記用具, メモ帳(手帳), 日報, 実習先から指定されている物, 評定書を持参すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週		1. 技術者が経験する実務上の問題点を体験することができる。	
		2週		2. 体験したことを日報にまとめることができる。	
		3週		3. 体験したことを報告書にまとめることができる。	
		4週		4. 体験したことを発表資料にすることができる。	
		5週		5. 体験したことを発表し, 質疑応答することができる。	
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		インターンシップ評価基準		合計	
総合評価割合		100		100	
配点		100		100	

## ○ 鈴鹿工業高等専門学校専攻科授業科目の履修及び単位修得に関する規則

〔平成 16 年 4 月 1 日〕  
規則 第 20 号

最終改正 令和7年4月9日

## 鈴鹿工業高等専門学校専攻科授業科目の履修及び単位修得に関する規則

## (趣旨)

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科（以下「専攻科」という。）における授業科目の履修及び単位修得に関する事項は、この規則の定めるところによる。

2 前項にかかわらず、本校学則（平成 16 年学則第 1 号。以下「学則」という。）第 4 条第 3 項第 4 号に規定する先端融合テクノロジー連携教育プログラムコースについては、別に定める。

## (授業科目)

第 2 条 授業科目は、講義、外国語（語学に限る。以下同じ。）、輪講、実験及び特別研究に分類する。ただし、副コースの授業科目は講義のみとする。

## (1 単位当たりの履修時間)

第 3 条 1 単位当たりの履修時間は、次表のとおりとする。

講	義	15	時	間
外	国	30	時	間
輪	講	30	時	間
実	験	45	時	間
特	別	45	時	間
研	究			

## (履修届)

第 4 条 学生は、学期毎に履修届を学生課教務係へ提出するものとする。なお、学生は学則第 4 条第 4 項に規定する主たるコース（以下「主コース」という。）以外のコース（以下「副コース」という。）を選択する場合は、専攻科 1 年次前期提出の履修届に、選択した副コースを記入しなければならない。

## (試験)

第 5 条 試験は、定期試験及び追試験とする。

2 試験は、特別の事情がない限り、その授業の終了する学期末に実施する。

3 定期試験の科目、日時その他の必要な事項は、試験開始日の 2 週間前(追試験にあつては、1 週間前)までに公示する。

なお、学期中間の講義中に中間試験を原則として行う。

4 試験を受けることができる者は、当該学期における当該授業科目を履修した者とする。

5 欠席時数が講義時間数の 5 分の 1 を超える者については、定期試験を受験した場合であっても、その科目の単位を認めない。ただし、授業科目の欠席時数が 3 分の 1 以内で、その欠

席時数が主として長期の疾病に起因する場合に限り考慮することがある。

(追試験)

第6条 追試験は、次の各号の一に該当することにより、定期試験が受けられなかったときに限って受けることができる。

- (1) 病気
- (2) 事故
- (3) 2 つ以上の科目の試験時間が重複する場合
- (4) その他やむを得ない事情と認められる場合

(再試験)

第7条 定期試験及び中間試験の評価で 60 点に達していない授業科目については、再試験を行うことができる。

2 再試験における試験科目の点数については、60 点を上限とする。

3 不正行為については鈴鹿工業高等専門学校学業成績評価基準（以下「学業成績評価基準」）における規定を準用する。

(不正行為の取扱い)

第8条 不正行為については学業成績評価基準における規定を準用する。

(成績の評価)

第9条 授業科目の成績評定記号は、「秀」、「優」、「良」、「可」又は「不可」とする。2 評定は、試験結果を100点法によって行い、次の点数基準により表す。

秀	100点	—	90点
優	89点	—	80点
良	79点	—	70点
可	69点	—	60点
不可	59点以下		

(単位の認定)

第10条 前条の「秀」、「優」、「良」又は「可」の評定記号を得たものを単位修得として認定する。

(単位の再認定)

第11条 前条の単位が認定されなかった授業科目については、第5条第4項の規定にかかわらず、次年度に限り当該授業科目を履修することなく試験を受け、単位の再認定を求めることができる。

2 前項により単位の再認定を求める者は、授業科目担当教員の許可を受けた上で、別記様式第2に定める再認定希望届を学生課教務係へ提出しなければならない。

(大学等における授業科目の履修等)

第12条 学則第52条の規定により、大学等における学修等を本校における授業科目の履修とみなし、単位の認定を受けようとする者は、他大学等の授業を履修する前に別記様式第3に定める大学等における学修申請書を学生課教務係に提出し、履修後は別記様式第4に定める大学等における学修単位認定申請書を同係に提出しなければならない。

2 前項の規定により認定を受けた単位のうち、修了認定に係る単位数は、別に定める。

(副コースにおける授業科目の履修)

第13条 副コースにおける授業科目の履修は、選択した副コースに対応する専門展開科目の選択に限る。

2 前項により授業科目を履修する学生が、副コースにおける履修を主コースにおける履修としようとするときは、当該授業科目が主コースに対応する場合に限り、履修届提出時に変更することができる。

附 則

この規則は、平成 25 年 12 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2 改正後の規則は、平成 29 年度専攻科入学生から適用し、平成 28 年度以前専攻科入学生については、なお従前による。

附 則

1 この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

2 改正後の規則は、令和 2 年度専攻科入学生から適用し、平成 31 年度以前専攻科入学生については、なお従前による。

附 則

この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、令和 7 年 4 月 9 日から施行し、令和 7 年 4 月 1 日から適用する。

2 改正後の規則は、令和 7 年度専攻科入学生から適用し、令和 6 年度以前専攻科入学生については、なお従前による。

## 年度始めオリエンテーション

専攻科1年次

## 専攻科スタッフ

- ▶ 専攻科長  
▶ ████████(C)
- ▶ 副専攻科長  
▶ ████████(M)
- ▶ 専攻科長補佐(2年次担当)  
▶ ████████(E)
- ▶ 専攻科長補佐(1年次担当)  
▶ ████████(I)
- ▶ 専攻科分科会(専攻科のサポート)  
なお、上記以外に専門学科から、  
██████先生(C)、██████先生(S)が  
専攻科分科会のメンバーになっています。

▶ 2

## 1年次担当の専攻科長補佐

担当	電子情報工学科 ████████
教員室	電子情報工学科棟3F 第9教員室(5311)
教員実験室	電子情報工学科棟3F 第9多目的室(5310)
通常の連絡	████████████████████

緊急時は、担任、寮監(寮生用)、守衛室(059-368-1709)、学生課(070-6514-7371)に連絡してください。(不在の場合に連絡する順になっています)  
連絡等は、Teams、moodle、学校のメール(r05aXX@ed.cc.suzuka-ct.ac.jp)を通じて行いますので、携帯から見られるようにしておいてください。  
\* 連絡を見るのを忘れて、もしくは遅れて、各種申込、単位が履修できなくなっても自己責任です

▶ 3

## 今後の予定

4月5日(水)  
オリエンテーション  
(今後の予定、学校の方針等の復習、コースについて、グローバルエンジニアプログラムについて、室長・副室長の選出、安全教育など)

4月6日(木)  
健康診断(8:50-) 各自で動いてください  
8:50- レントゲン(レントゲンバス)  
9:10- 計測・検尿(体育館)

内科検診  
男子:4月12日(水)  
13:35- 第一体育館  
女子:5月31日(水)  
14:40- LL教室

4月7日(金)  
TOEIC-IP(13:50@@室集合) 全員受験

4月10日(月)  
授業開始

▶ 4

[http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/guide\\_index/school/idea/](http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/guide_index/school/idea/)

## 鈴鹿工業高等専門学校基本理念

### 使 命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、我が国の産業の発展を支え、グローバルに活躍する人づくりと、新しい価値の創造により広く社会の発展に貢献する。

▶ 5

## 教 育 理 念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する
- (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる

▶

## 養成すべき人材像

[http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/guide\\_index/school/idea/](http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/guide_index/school/idea/)

- (1)生涯にわたり**継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性**を持った人材
- (2)**高い専門知識と技術**を有し、**深い洞察力と実践力**を備えた人材
- (3)**課題探究能力と問題解決能力**を身に付けた**創造性豊かな人材**
- (4)**コミュニケーション能力**に優れ、**国際性**を備えた人材

▶ 7

## 教育方針 (便覧の目次前にも記載あり)

- ▶ 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成する。
- ▶ 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者を育成する。
- ▶ 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者を育成する。
- ▶ 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者を育成する。

▶ 8

## 教育目標 (専攻科課程)

### ▶ 総合イノベーション工学専攻の教育目標

- ▶ より高度で幅広い専門知識や創造力、判断力を身に付け、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者を育てる。また、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。

### ▶ 環境・資源コース

- ▶ 地球温暖化や酸性雨に代表される環境問題、自然環境破壊抑制のための環境保全、バイオマス・鉱物・水・生物・海洋等各種天然資源の有効利用、環境調和型資源リサイクルによる循環型社会の構築等を行うために、機械・電気・電子・情報・通信・生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

▶ 9

## 教育目標 (専攻科課程)

### ▶ エネルギー・機能創成コース

- ▶ 次世代の新エネルギー開発、その安定供給、輸送や利用における効率化や関連機能材料等に関わる技術開発を行うために、機械・電気・電子・情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

### ▶ ロボットテクノロジーコース

- ▶ 自身の専門分野を軸としてロボットを構成する技術を高度化し、イノベーションの創出や革新的な応用技術を社会に還元するために、機械・電気・電子・情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

▶ 10

## 教育目標 (専攻科課程)

### ▶ 先端融合テクノロジー連携教育プログラム

- ▶ 本校専攻科と国立大学法人豊橋技術科学大学がそれぞれの強みをもつ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図り、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を養成する。

▶ 11

## グローバルエンジニアプログラム

グローバルエンジニアとして求められている英語力、交渉力、企画力、実行力、経営力、マネジメント力について学ぶ

### < 修了要件 >

- 本専攻科を修了していること
- 次の科目を修得していること
  - 英語表現論
  - グローバル・リーダー論  
交渉力、企画力、実行力、指導力、マネジメント力
  - 国際関係論  
世界各国の文化、政治、経済、習慣、国際法
  - 国際インターンシップ  
海外就労体験
- TOEICスコア650以上であること

▶ 12

### 3つの方針

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/guide/policy/#AP>

鈴鹿高専は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、国際的に活躍する人づくりと、新しい価値の創造により広く地域と社会の発展に貢献することを使命としています。人づくりに関する使命を達成するため、建学の精神を踏まえ、

1. 幅広い視野からの価値判断力
2. 健全な技術者精神と豊かな人間性
3. 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力
4. 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力
5. 心身を鍛え、自己を確立し、自ら未来を切り拓く力

を身につけ、地域と社会の持続的発展に貢献し、世界に通用する創造力豊かなエンジニアの育成を目標としています。

▶ 13

### アドミッションポリシー

1. 求める志願者像
  - ・ 科学技術の発展に寄与する意欲のある人
  - ・ 自らの向上をめざして継続的に自己学習を行う意欲・適性のある人
  - ・ 論理的に物事を考える適性をもつ人
  - ・ 豊かな想像力をもち、何事にも積極的に挑戦する意欲・適性のある人
  - ・ 広い視野をもち、将来、国際社会で活躍する意欲・適性のある人
2. 入学者選抜方針

本校専攻科では、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者の育成を目的とし、専攻科修了時にこの目的を達成できる高い可能性をもつ学生の選抜を基本とします。このため、学校長等の推薦による選抜及び社会人特別選抜においては、科学技術の発展や国際社会への貢献に向けて継続的に学習しようとする意欲、論理的思考能力などの適性、専門分野に関する基礎知識などを面接試験により評価し、推薦書(社会人特別選抜の場合は業績調書)及び調査書の内容と併せて総合評価します。

学力選抜においては、グローバルに活躍できる実践的技術者となるために必要な基礎的知識をTOEIC(Test of English for International Communication: TOEIC IPを含む)またはTOEFL(Test of English as a Foreign Language) iBTのスコアと数学の筆記試験により評価し、調査書の内容による意欲、適性、人物及び専門基礎知識の評価と併せて総合評価します。

▶ 14

### ディプロマポリシー

総合イノベーション工学専攻では、専攻科の教育方針および総合イノベーション工学専攻の教育目標のもと、所定の単位を修得し、以下の知識および能力を身につけた学生に対して修了を認定します。

1. <視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。
2. <技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。
3. <意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。
4. <基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。
5. <専門> 基礎工学に加え、主となる専門分野において環境・資源、エネルギー・機能創成、ロボットテクノロジーの各コースに関する専門工学の知識を習得し、それを活用できる。
6. <展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。
7. <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
8. <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。

▶ 15

### カリキュラムポリシー

総合イノベーション工学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下の方針でカリキュラムを構成し、**教育課程系統図**に示しています。

1. <視野>に関連した科目(言語表現学特論、国際関係論等)を配置する。
  2. <技術者倫理>に関連した科目(技術者倫理)を配置する。
  3. <意欲>に関連した科目(特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ)を配置する。
  4. <基礎>に関連した科目(代数学特論等)を配置する。
  5. <専門>に関連した科目として、環境・資源コースでは、(海洋環境学等)を配置する。エネルギー・機能創成コースでは、(次世代エネルギー工学、材料強度工学等)を配置する。ロボットテクノロジーコースでは、(実践メカトロニクス、制御機器工学等)を配置する。
  6. <展開>に関連した科目(総合イノベーション工学実験、特別研究Ⅰ、Ⅱ)を配置する。
  7. <発表>に関連した科目(特別研究Ⅰ、Ⅱ等)を配置する。
  8. <英語>に関連した科目(技術英語Ⅰ、Ⅱ等)を配置する。
- 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上となることによって単位を認定します。

▶ 16

### 学位の説明

専攻科を修了することが前提、**学位取得に必要な単位を取得し、学位授与機構に申請して、「修得単位の審査」「学修総まとめ科目(特別研究Ⅱ)の履修に関する審査」に合格すれば認定される。**(ただし、専攻科を修了できなければ「不合格」)

**学位は、本科3～4年からの学修に対して授与される(専攻科での学修だけではない)**

2年次の6月、2月の2回、それぞれ必要な審査書類を電子申請(R05入学生から、2年次の審査書類提出期限が前倒し)

特別研究Ⅰ発表会(1年次の2月下旬頃、ポスター発表)

**来年2月～3月上旬に予定を入れないこと!**

特別研究Ⅱ発表会(2年次の1月下旬頃、25分程度口頭発表、英語の発表あり)

それぞれ、評価票を主査・副査に提出

▶ 17

### 安全教育

#### ▶ 実験実習安全必携

- ▶ 時々読み返して、緊急時にすぐに対応できるように。
- ▶ VDT症候群(Visual Display Terminal Syndrome)
  - ▶ 長時間のVDT作業(PC作業)では健康障害の問題が発生し得るので注意する。
  - ▶ 厚生省発表のガイドラインでは作業時間は1時間以内とし、10分から15分の休憩を必ず取り、1日の作業時間を4～5時間以内とするべきである。(上記の実験実習安全必携より抜粋)

#### ▶ 廃棄物、廃液の処分

- ▶ 法令等に従い適切に行うこと
- ▶ 排水について

▶ 18

## ガイダンス

- ▶ 室長・副室長の決定(1Aで1人ずつのみ)
  - ▶ 黒板の掃除担当を決める(選択科目は履修順に)
- ▶ 日常的な連絡
  - ▶ 専攻科棟入り口の掲示板
  - ▶ Moodle(主に学位申請、特別研究)
  - ▶ Teams(授業一般, 奨学金等の学生支援関係)
  - ▶ 電子メール
    - ▶ 基本的に鈴鹿高専のメールアドレス(@ed.cc.suzuka-ct.ac.jp)
    - ▶ 携帯などに転送設定しておいてください、
    - ▶ 一斉メールの登録も忘れずに!
  - ▶ 教室画像掲示装置

▶ 19

海外研修プログラムは今年度から順次再開予定  
対面でのインターンシップも昨年度から再開されている  
参加希望者は、締め切り等に関するアナウンスを逃さない  
ように!

▶ 20

## TOEIC IPの日程

- ▶ 425点未満の学生は必ず受験すること、入学試験時の達成目標スコアを達成していない学生も!
  - ▶ 第1回: 4月7日(金), 13:50 @ 室集合(全員)
  - ▶ 第2回:
  - ▶ 第3回:
  - ▶ 第4回:
  - ▶ 卒業時には425点以上を全員クリアすること(IPの必要はありません)

## 意見交換会の意見と対応について

- ▶ 昨年度の対応について、教室に掲示予定

▶ 21

## 就職活動

- 6月以前から事実上の選考が行われている。
  - インターンシップが0次面接になることも!
  - 3月の企業説明会から選考に関係してくることが多い。
    - ✓ 求人票公開(3/1)から企業を探しては出遅れる。
    - ✓ 昨年度の求人票を参考に応募企業を検討する。

## 進学活動

- 研究室の教授との事前面談が必須であることが多い。
  - 希望大学院ではなく、希望研究室を選ぶ。
  - 春休み中に研究室訪問をする。
- 日頃の研究活動が重要
  - 学会発表などを行うこと
  - TOEICスコアが重要(入試の英語試験の代わりに)

**進学予定者以外も、在学中に必ず学外での研究発表を行ってください**

**学外活動への積極的な参加を!**

▶ 22

## その他

### 懲戒規則制定(学科に準ずる!)

- (例)2輪4輪の無許可乗入
- 1回目で懲戒処分(保護者来校) ← 優秀賞がもらえない**

### SNS利用モラル

- 特に就職の内定などについてコメントしないこと!**

### 後期12月に進学・就職先の調査

### 自転車の登録(h29から保険加入必須)

▶ 23

## 年度始めオリエンテーション (R5)

専攻科2年次

## 配布物

- ▶ 学生課前(数名)
  - ▶ 学生便覧・時間割等(学生課前廊下机)
  - ▶ R4特別研究論文集・専攻科パンフレット(学生課前廊下机)
  - ▶ 健康診断関係(検尿カップ等)(学生課前廊下机)
  - ▶ 鈴風(学生課横:本科生日直連絡箱の上)
  - ▶ 成績表
- ▶ 第二合併講義室(各自, 14:00~)
  - ▶ 教科書等

▶ 2

## 専攻科スタッフ

- ▶ 専攻科長
    - ▶ [ ] (C)
  - ▶ 副専攻科長
    - ▶ [ ] (M)
  - ▶ 専攻科長補佐(2年次担当)
    - ▶ [ ] (E)
  - ▶ 専攻科長補佐(1年次担当)
    - ▶ [ ] (I)
  - ▶ 専攻科分科会(専攻科のサポート)
 

なお、出身学科の教員に相談がある場合は、  
[ ] 先生(C), [ ] 先生(S), [ ] 先生(G)  
にも乗ってもらえます。
- 学科長:進路関係  
特別研究指導教員:研究、学会発表等  
専攻科長補佐:履修、学位申請書類等

▶ 3

## 専攻科長補佐(2年次担当)

担当	電気電子工学科 [ ]
教員室	電気電子 [ ] 306室(第8教員室) TEL [ ]
教員実験室	電気電子工学科棟 3F 3301 計算機工学実験室
通常の連絡	基本、Teamsの Teams障害時は [ ] またはTEL

緊急時は、担任、寮監(寮生用)、守衛室(059-368-1709)、学生課(070-6514-7371)に連絡してください。(不在の場合に連絡する順になっています)  
連絡等は、Teams, moodle、学校のメール(r04a○○@ed.cc.suzuka-ct.ac.jp)を通じて行いますので、携帯から見られるようにしておいてください。  
\*連絡を見るのを忘れて、もしくは遅れて、各種申込、単位が履修できなくなっても自己責任です

▶ 4

## 年度初めの予定 R5

- ▶ 4/5(水)
  - ▶ 14:00 オリエンテーション(情報処理センター第2演習室)
    - ▶ 年度初めの予定、使命、理念、人物像、方針、目標、グローバル、学位、3つの方針
    - ▶ 安全教育
    - ▶ ガイダンス(室長、副室長の確認など)
  - ▶ 単位取得状況表の作成(moodleに提出)
- ▶ 4/6(木) 就職、進学時に健康診断書が必要
  - ▶ 8:50 クラス写真(晴:風車前、雨:第2体育館) スーツを忘れずに
  - ▶ 9:05 身体計測(第1体育館) 身長、体重、血圧、視力、検尿
  - ▶ 9:25 聴力検査(会議室A,B,C)
- ▶ 5 個人面談を実施(総括表の確認等) Teamsのスケジュール確認

## 年度初めの予定 R5

- ▶ 4/7(金)
  - ▶ 14:00 ~ TOEIC-IP 全員受験(場所:視聴覚室)
- ▶ 4/10(月) 授業開始
- ▶ 4/12(水) 13:35- 内科検診(男子:第1体育館)
- ▶ 5/31(水) 14:40- 内科検診(女子:LL教室)

▶ 6

### 学位の説明

専攻科を修了することが前提。学位取得に必要な単位を取得し、学位授与機構に申請して、「修得単位の審査」「学修総まとめ科目(特別研究Ⅱ)の履修に関する審査」に合格すれば認定される。(ただし、専攻科を修了できなければ「不合格」)

**学位は、本科3～4年からの学修に対して授与される(専攻科での学修だけではない)**

10月、2月の2回、それぞれ必要な審査書類を電子申請

**7月、9月(出校日あり)、12月に別途ガイダンス実施**

特別研究Ⅱ発表(1月下旬頃、25分程度口頭発表、英語の発表あり)

評価票を主査・副査に提出

学外(学会等)での研究発表もできるだけ行うこと

**特別研究論文(数十ページ)・特別研究論文集(4ページ)等も**

▶ 7

### 本校の教育について

- ▶ 本校の使命
- ▶ 教育理念
- ▶ 養成すべき人材像
- ▶ 教育方針(専攻科課程)
- ▶ 総合イノベーション工学専攻の教育目標
  - ▶ ディプロマポリシー
  - ▶ カリキュラムポリシー
- ▶ 学習・教育到達目標

本校webサイトや学生便覧で公開しています。

▶ 8

### 鈴鹿工業高等専門学校基本理念

#### 使 命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、グローバルに活躍する人づくりと、新しい価値の創造により広く地域と社会の発展に貢献する。

▶

9

### 教 育 理 念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する
- (2) 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる

▶

10

### 養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探究能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

▶

11

### 教育方針

- ▶ 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成する。
- ▶ 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探究能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者を育成する。
- ▶ 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者を育成する。
- ▶ 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者を育成する。

▶ 12

### 総合イノベーション工学専攻の教育目標

▶ より高度で幅広い専門知識や創造力、判断力を身に付け、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者を育てる。また、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。

#### ▶ 環境・資源コース

▶ 地球温暖化や酸性雨に代表される環境問題、自然環境破壊抑制のための環境保全、バイオマス・鉱物・水・生物・海洋等各種天然資源の有効利用、環境調和型資源リサイクルによる循環型社会の構築等を行うために、機械・電気・電子・情報・通信・生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

▶ 13

### 教育目標 (専攻科課程)

#### ▶ エネルギー・機能創成コース

▶ 次世代の新エネルギー開発、その安定供給、輸送や利用における効率化や関連機能材料等に関わる技術開発を行うために、機械・電気・電子・情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

#### ▶ ロボットテクノロジーコース

▶ 自身の専門分野を軸としてロボットを構成する技術を高度化し、イノベーションの創出や革新的な応用技術を社会に還元するために、機械・電気・電子・情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

▶ 14

### 教育目標 (専攻科課程)

#### ▶ 先端融合テクノロジー連携教育プログラム

▶ 本校専攻科と国立大学法人豊橋技術科学大学がそれぞれの強みをもつ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図り、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を養成する。

▶ 15

### グローバルエンジニアプログラム

グローバルエンジニアとして求められている英語力、交渉力、企画力、実行力、経営力、マネジメント力について学ぶ

#### <修了要件>

- 本専攻科を修了していること
- 次の科目を修得していること
  - 英語表現論
  - グローバル・リーダー論  
交渉力、企画力、実行力、指導力、マネジメント力
  - 国際関係論  
世界各国の文化、政治、経済、習慣、国際法
  - 国際インターンシップ  
海外就労体験
- TOEICスコア650以上であること

**注) 履修が認められてなければ、修了生になれません!**

▶

16

### ディプロマポリシー

総合イノベーション工学専攻では、専攻科の教育方針および総合イノベーション工学専攻の教育目標のもと、**所定の単位を修得し、以下の知識および能力を身につけた学生に対して修了を認定します。**

- ▶ <視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。
- ▶ <技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。
- ▶ <意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。
- ▶ <基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。
- ▶ <専門> 基礎工学に加え、主となる専門分野において環境・資源、エネルギー・機能創成、ロボットテクノロジーの各コースに関する専門工学の知識を習得し、それを活用できる。
- ▶ <展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。
- ▶ <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
- ▶ <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。

▶ 17

### カリキュラムポリシー

総合イノベーション工学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下の方針でカリキュラムを構成し、教育課程系統図に示しています。

- ▶ <視野>に関連した科目(言語表現学特論、国際関係論等)を配置する。
- ▶ <技術者倫理>に関連した科目(技術者倫理)を配置する。
- ▶ <意欲>に関連した科目(特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ)を配置する。
- ▶ <基礎>に関連した科目(代数学特論等)を配置する。
- ▶ <専門>に関連した科目として、
  - ▶ 環境・資源コースでは、(海洋環境学等)を配置する。
  - ▶ エネルギー・機能創成コースでは、(次世代エネルギー工学、材料強度工学等)を配置する。
  - ▶ ロボットテクノロジーコースでは、(実践メカトロニクス、制御機器工学等)を配置する。
- ▶ <展開>に関連した科目(総合イノベーション工学実験、特別研究Ⅰ、Ⅱ)を配置する。
- ▶ <発表>に関連した科目(特別研究Ⅰ、Ⅱ等)を配置する。
- ▶ <英語>に関連した科目(技術英語Ⅰ、Ⅱ等)を配置する。
- ▶ 上記カリキュラムを構成している各科目は、それぞれのシラバスに記載されている評価方法に沿って評価した結果が60点以上となることにより単位を認定します。

▶ 18



もし誤って実験廃液を流してしまったら??

- ▶ そのような事態となった場合は**実験をすぐに中止し、その実験流し台の使用を止め、施設係(内線1725)へ連絡してください。**

▶ 25

SNS利用のモラルについて

- ▶ 投稿の公開設定を確認する。公開禁止・グループ内のみ公開・全員に公開など
- ▶ 公衆あるいは対面で堂々と書かないことや公開できない情報を、SNSに書いてはいけない。
- ▶ 読み手が不愉快に感じないか、法的に問題ないかを常に意識する。
- ▶ 「知らなかった」、「気が付かなかった」は全く適用しない。刑事責任・民事責任を問われる。
- ▶ 一旦投稿したら、どこかにコピーが残っていて、完全に消すことができないこと思ったほうがよい。
- ▶ 投稿者の個人特定をしようと思えば、結構特定できる。
- ▶ 公開情報からだけでも結構特定できる。法的手続きのもとであれば、特定できる確率はさらに高くなる。
- ▶ 投稿内容には、その人の性格が反映されると考えている人は多い。
- ▶ 企業は、マナーの悪い或いは法律違反の投稿をした人を採用したくないと考える。一度でもそのような投稿したら、就職・進学で不利になる可能性があると感じたほうがいい。
- ▶ その組織のすべての人に迷惑がかかる可能性がある。
- ▶ 「勤怠高専にはこんな投稿をする学生がいる」と思われれば、「勤怠高専には入学させないでおう」「勤怠高専からは採用しないでおう」と思われかねない。

大学院等の推薦入試条件「学業・人物共に優秀で……」

▶ 26

大学院入試説明会

- ▶ 大阪大学理学研究科物理学専攻
- ▶ 4月22日(土)13時~17時半:対面とオンラインのハイブリッド形式
- ▶ 要参加希望登録

▶ 27

moodle「専攻科」2022年度入学版単位取得状況表

The screenshot shows the Moodle interface for the 2022年度入学版単位取得状況表. The page title is "moodle「専攻科」2022年度入学版単位取得状況表". The main content area displays a list of units with their status, including "単位取得状況の概観", "2022年度入学版単位取得状況表", "授業科目 (4550)", and "単位ファイル (2473)".

▶ 28

昨年4月に入力した「総括表」  
(各自のマインドキュメント等に保存)

The screenshot shows an Excel spreadsheet titled "総括表". The table has columns for "専攻科名", "単位名", "履修状況", and "単位取得". The data is organized in a grid format, with rows representing individual units and columns representing different categories or statuses.

本日入力の「単位取得状況表」

The screenshot shows an Excel spreadsheet titled "単位取得状況表". The table has columns for "専攻科名", "単位名", "履修状況", and "単位取得". The data is organized in a grid format, with rows representing individual units and columns representing different categories or statuses.

▶ 30

### 「提出フォルダ【2A学生】」へ提出

31

### 令和4年度入学専攻科教育課程

- ▶ 学生便覧PI08,PI10
- ▶ 経営学と言語表現学特論はどちらか1つ以上修得
- ▶ PI10 コース必修、コース選択科目(選択科目各コース4単位以上)等に注意
- ▶ 専攻科62単位以上
- ▶ 学位の縛りと専攻科修了の縛りが違う

32

### その他連絡

- ▶ 本科生の実験等TAに任用された学生は必要書類を提出
- ▶ 室長 ■■■君、副室長 ■■■君
- ▶ 自転車ヘルメットは努力義務。ノーヘルの場合、事故での被害時に保険金減額の恐れあり

33

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	長期海外インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	0027		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 12			
開設学科	総合イノベーション工学専攻 (環境・資源コース)		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	12			
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き						
担当教員	[REDACTED]						
到達目標							
長期インターンシップは本校と協定を締結した海外の大学又は企業において, グローバルな視野を養い, 創造性豊かな実践的技術者として, 将来, 活躍するための必要な資質を涵養するために実施することを目的とする。また, 大学又は企業において体験したことを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成・報告する。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	海外の大学又は企業でグローバルな視野を涵養する。						
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は, 学習・教育到達目標(A)&lt;視野&gt;, (B)&lt;専門&gt;&lt;展開&gt;, (C)&lt;英語&gt;に対応する。</li> <li>「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。</li> <li>次のインターンシップ機関(以下, 実習機関), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 報告書, 発表資料を作成し, 発表を行う。</li> <li>【実習機関】本校と協定を締結した海外の大学または企業</li> <li>【内容】長期海外インターンシップの目的にふさわしい業務</li> <li>【期間】12週間以上の期間実施した場合において, 60日以上</li> <li>【日報】毎日, 日報を作成すること。</li> <li>【課題】インターンシップ終了後に, 成果報告書を作成し提出すること。</li> <li>【発表】専攻科分科会で定める時期に成果報告会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表を行うこと。</li> </ul>						
注意点	<p>&lt;到達目標の評価方法と基準&gt;下記授業計画の「到達目標」1~6の習得具合を勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表の項目を総合して評価する。評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである。</p> <p>&lt;学業成績の評価方法および評価基準&gt;長期海外インターンシップの実施状況, 成果報告書および成果発表会により成績を評価する。</p> <p>&lt;単位修得要件&gt;総合評価で「可」以上を取得すること。</p> <p>&lt;あらかじめ要求される基礎知識の範囲&gt;外国語での日常会話程度の語学力, 心得(時間の厳守, 挨拶, お礼など)</p> <p>&lt;レポートなど&gt;日報は, 毎日, 作成し, 報告書も作成し, 実習指導責任者の検印を受けて, インターンシップ終了後に, 担当教員に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。</p> <p>&lt;備考&gt;実習機関の規則を厳守すること。</p>						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	実施計画書による	1. グローバルな視野を養うために, 海外の大学又は企業でのテーマ等を長期間体験できる。			
		2週		2. 創造性豊かな実践的技術者として活躍するために, 実践的国際感覚を体得できる。			
		3週		3. 体験したことを日報にまとめることができる。			
		4週		4. 体験したことを報告書にまとめることができる。			
		5週		5. 体験したことを発表資料にすることができる。			
		6週		6. 体験したことを発表し, 質疑応答することができる。			
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
配点	0	100	0	0	0	0	100

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和07年度 (2025年度)	授業科目	海外語学実習Ⅲ	
科目基礎情報						
科目番号	0031		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	総合イノベーション工学専攻 (環境・資源コース)		対象学年	専1		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: 海外語学実習の手引き					
担当教員	海外語学実習担当教員					
到達目標						
現地での外国語環境との密接な接触を通じて, 国際的に活躍できる人として必要な資質と実践的国際感覚を体得し, それらを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えられる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1	現地での外国語環境との密接な接触を通じて, 国際的に活躍できる人として必要な資質と実践的国際感覚を体得し, それらを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えられる。		現地での外国語環境に接触し, 国際的に活躍できる人として必要な資質と実践的国際感覚を部分的に体得し, それらを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えられる。		現地での外国語環境と接触し, 国際的に活躍できる人として必要な資質と実践的国際感覚を体得できず, それらを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	海外においてグローバルな視野を養い語学能力の向上を図る。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は, 学習・教育到達目標(A) &lt;視野&gt; および (C) &lt;英語&gt; に対応する。</li> <li>「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。</li> <li>次の海外語学実習対象プログラム(以下, 実習プログラム), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 日報, 報告書, 発表資料を作成し, 発表を行う。</li> <li>【実習プログラム】 鈴鹿工業高等専門学校, 他の高等専門学校, 国立高等専門学校機構及び営利団体又は公共団体等の期間が主催する実習プログラムとする。営利団体又は公共団体等の機関が主催する実習プログラムの場合は, 教務委員会に諮り承認を得るものとする。【内容】 専攻科生が参加出来るプログラムのうち, 海外語学実習の目的にふさわしい内容</li> <li>【期間】 24日以上</li> <li>【日報】 毎日, 日報を作成すること。</li> <li>【課題】 海外語学実習終了後に, 報告書を作成し提出すること。</li> <li>【発表】 終了後に課外語学実習発表会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表準備を行うこと</li> </ul>					
注意点	<p>&lt;到達目標の評価方法と基準&gt; 下記授業計画の「到達目標」の1~6の習得具合を実習状況, 実習態度, 日報, 報告書および発表の項目を総合して評価する。評価に対する達成目標の各項目の重みは同じである。</p> <p>&lt;学業成績の評価方法および評価基準&gt; 「海外語学実習成績評価基準」に定められた配点に従って, 実習状況, 実習態度, 日報, 報告書および発表により成績を評価する。</p> <p>&lt;単位修得要件&gt; 総合評価で「可」以上を取得すること。</p> <p>&lt;あらかじめ要求される基礎知識の範囲&gt; 心得(時間の厳守(10分前集合), 挨拶, お礼など)</p> <p>&lt;レポートなど&gt; 日報は, 毎日, 作成し, 報告書も作成し, 実習指導責任者の検印を受けて, 実習終了後に, 2年学生は専攻主任に, 1年学生は専攻副主任に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。</p> <p>&lt;備考&gt; 専攻科生が参加出来るプログラムのうち, 海外語学実習の目的にふさわしい内容であること。学年末休業期間中に海外語学実習を開始する場合には, 海外語学実習の単位を含めること無く課程修了が認められる場合に限るものとし, 単位修得の学年は当該学年とする。評定書を最終日に受け取ったら, 2年学生は専攻主任に1年学生は専攻副主任に提出すること。筆記用具, メモ帳(手帳), 日報, 実習先から指定されている物, 評定書を持参すること。</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週		1. 国際的に活躍できる人として必要な資質が分かり, それらを体得できる。		
		2週		2. 実践的国際感覚が分かり, それらを体得できる。		
		3週		3. 体得したことを日報にまとめることができる。		
		4週		4. 体得したことを報告書にまとめることができる。		
		5週		5. 体得したことを発表資料にすることができる。		
		6週		6. 体得したことを発表し, 質疑応答することができる。		
	2ndQ	7週				
		8週				
		9週				
		10週				
		11週				
		12週				
	後期	3rdQ	13週			
			14週			
			15週			
			16週			

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
		4thQ	9週	
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		海外語学実習成績評価基準		合計	
総合評価割合		100		100	
配点		100		100	

## 令和7年度 鈴鹿高専専攻科 カナダ語学研修 参加学生募集要領

**趣 旨**

本校学生を海外に派遣し、ホームステイ及びEAP (English for Academic Purpose) を通じて日本では経験できない諸外国の現状・文化事情等に触れさせることにより、国際的視野を持った技術者を養成することを目的とする。

**派遣先**

カナダ・オンタリオ州・ジョージアンカレッジ

URL: <https://www.georgiancollege.ca/>

**派遣期間**

令和7年8月25日(月)～10月17日(金)

**派遣の概要**

プログラム参加学生はホームステイにより異文化体験をしながら7週間のEAPを受講する。EAPは英語の習熟度別に8クラスに分けられるため効果的な語学能力向上を図ることができる。さらに、世界各国からの留学生と共に学習を行うことによりグローバルな視野を併せて身につけることができる。また、滞在中の7週間は、ホームステイを行い、異国での実際の生活を通して異文化を理解し相互のコミュニケーションを発展させることが可能である。

EAP受講のみではなく、ホームステイを兼ね備えることにより、現地でのオリエンテーションを含めた約2か月間、異文化圏での生活を経験することとなる。これにより、語学能力の向上・国際性の養成にとどまらず、海外での活躍に対するモチベーションの向上を目指す。

**応募資格** 本校の専攻科1年次に在学する学生

**募集人数** 10人程度

**募集期間** 令和7年4月11日(金)～4月30日(水)

**渡航費用**

1人あたり渡航費・授業料(医療保険・空港送迎含む)・教科書代・ホームステイ経費等の必要経費合計で80～90万円及びその他雑費等(任意旅行保険等)が必要となる。引率教員なし

(金額は目安であり、航空運賃、燃油サーチャージ、為替レートの変動等により、負担額が増減する可能性がある。)

**補 助**

高専機構本部の海外留学支援制度を利用し、1人あたり10万円(別途課題等、提出書類あり)

(本校後援会より1人あたり15万円程度) 検討中

**申込み方法**

「学生海外派遣応募申請書(専攻科)」に必要事項を記載のうえ、専攻科長補佐の押印後、学生課教務係に提出する。

採択後、Formsにて必要情報を記入し、パスポートのコピー及びTOEICスコアを提出すること。

※パスポートを持っていない場合は、教務係に相談してください。

**参加学生の決定**

応募者の成績状況やTOEICスコア等を総合的に判断し参加学生を決定する。

5月下旬迄に本人及び専攻科長補佐に通知する。

**事前準備**

参加学生は、本校で実施するオリエンテーションに必ず参加すること。

参加学生は、事前にTOEICの学習だけでなく、オーラルを含む英語コミュニケーション能力向上に向けた自己研鑽に努めること。

**帰国報告**

参加学生は滞在期間中に週報をTeams上に提出し、後日開催の帰国報告会にてカナダでの授業や生活の様子などについて成果報告を行うこと。また、その際のプレゼン資料を期日までに提出すること。

**その他**

- (1) 必ず任意の海外旅行傷害保険に加入すること。
- (2) 参加決定後の辞退はできない。
- (3) 留学の成果を確認するために帰国後にTOEIC試験を受験すること。(任意)
- (4) 授業実施日に該当する期間は公欠とする。

## 令和6年度 修了認定会議議事録

日時：令和7年3月5日（水）本科卒業判定会議後～14：20

場所：第3合併講義室 対面実施

出席：専攻科授業担当教員

欠席：■■■■

陪席：■■■■■■

説明担当：専攻科長 司会進行：学生課長

### 審議事項

1. 専攻科2年次修了認定について【回収資料】参考資料として表紙のみあり  
専攻科長より成績状況の報告がなされ、修了要件の確認が行われ修了が認定された。

なお、3名の修了不認定者あり。

## ○ 鈴鹿工業高等専門学校専攻科の修了認定に関する規則

〔平成16年9月6日〕  
規 則 第 6 8 号  
最終改正令和7年3月13日

## 鈴鹿工業高等専門学校専攻科の修了認定に関する規則

(趣旨)

第1条 独立行政法人国立高等専門学校鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科（以下「専攻科」という。）の修了認定に関する事項は、この規則の定めるところによる。

2 前項にかかわらず、本校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第4条第3項第4号に規定する先端融合テクノロジー連携教育プログラムコースの修了認定に関する事項は、別に定める。

(修了認定)

第2条 専攻科の修了認定は、別に定める学習・教育到達目標の達成度評価基準を満たしている者のうち、学則（第4条第4項に規定する主たるコース（以下「主コース」という。）を修了した者に対して行う。主コースの修了認定は、専攻科に2年以上在学し、次表に定める単位数を修得している者に対して行う。

区 分		修得単位数	備 考
教養科目	必修	6単位	
	選択	2単位以上	
コース共通科目	必修	14単位	
	選択	2単位以上	
専門展開科目	必修	20単位	
	コース必修	2単位	
	選択	8単位以上	
合 計		62単位以上	

第3条 主コース以外のコースの修了認定は、前条の規定を満たす者のうち、専攻科授業科目の履修及び単位修得に関する規則第13条に規定する授業科目を8単位修得している者に対して行う。

第4条 第2条及び第3条の修了認定は、専攻科の授業科目担当教員で組織する修了認定会議の意見を聞いて、校長がこれを行う。

第5条 校長は、第2条の規定を満たす者に対し、所定の修了証書を授与する。

(コース変更)

第6条 教育課程表の変更を伴う主コースの変更は、専攻科長が主宰する会議の審議を経て、教務委員会へ報告することとする。

附 則

この規則は、平成24年2月6日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年2月25日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則

1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。2 改正後の規則は、平成29年度専攻科入学生から適用し、平成28年度以前専攻科入学生については、なお従前による。

附 則

1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。

2 改正後の規則は、令和2年度専攻科入学生から適用し、平成31年度以前専攻科入学生については、なお従前による。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

回収資料

No. \_\_\_\_\_

令和 年度

# 専攻科修了認定会議資料

学業成績／学習・教育到達目標達成度状況／出欠一覧表  
(専攻科2年次)

令和 年 月 日

鈴鹿工業高等専門学校







# 令和7年度 専攻科学生募集要項 入学案内

推薦 社会人特別選抜	出願期間	令和6年5月7日(火)～5月10日(金)
	面接試験日	令和6年5月18日(土)
	合格者発表	令和6年5月24日(金) 午前10時
学力	出願期間	令和6年5月28日(火)～5月31日(金)
	試験日	令和6年6月15日(土)
	合格者発表	令和6年6月21日(金) 午前10時



NIT, Suzuka College

独立行政法人 国立高等専門学校機構

**鈴鹿工業高等専門学校**

〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町

TEL 059-368-1739

FAX 059-368-1738

<https://www.suzuka-ct.ac.jp>

## 目 次

## 令和7年度専攻科学生募集要項

1	鈴鹿工業高等専門学校専攻科について	1
	(1) 専攻科の設置及び改組	
	(2) 専攻科の教育方針	
2	アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
	(1) 求める志願者像	
	(2) 入学者選抜方針	
3	専攻の入学定員及びコース等説明	2
	(1) 入学定員	
	(2) コース説明	
	(3) 先端融合テクノロジー連携教育プログラム	
	(4) グローバルエンジニアプログラム	
4	修業年限	3
5	募集人員	3
6	選抜の方法	3
7	推薦による選抜	3
	(1) 出願資格	
	(2) 入学願書受付	
	(3) 出願手続	
	(4) 選抜の実施方法	
	(5) 面接試験日時及び場所	
	(6) 合格者の発表	
	(7) 入学確約書の提出	
	(8) 「推薦による選抜」に合格しなかった者の取扱い	
	(9) 入学手続	
	(10) その他の注意事項	
8	社会人特別選抜	6
	(1) 出願資格	
	(2) 入学願書受付	
	(3) 出願手続	
	(4) 選抜の実施方法	
	(5) 面接試験日時及び場所	
	(6) 合格者の発表	
	(7) 入学確約書の提出	
	(8) 「社会人特別選抜」に合格しなかった者の取扱い	
	(9) 入学手続	
	(10) その他の注意事項	

9	学力試験による選抜	9
	(1) 出願資格	
	(2) 入学願書受付	
	(3) 出願手続	
	(4) 選抜の実施方法	
	(5) 試験日時及び場所	
	(6) 合格者の発表	
	(7) 入学確約書の提出	
	(8) 入学手続	
	(9) その他の注意事項	
10	追試験の実施について	12
	(1) 受験資格	
	(2) 推薦による選抜及び社会人特別選抜における追試験	
	(3) 学力試験による選抜における追試験	
11	先端融合テクノロジー連携教育プログラムの募集について	13
12	入学前に修得した教科内容の確認等について	13
13	個人情報の取扱いについて	14
14	入試情報の提供について	14
15	入学者選抜に関する合理的配慮の提供について	14
16	その他	15

## 専攻科入学案内

1	教育課程	16
2	学士の学位の取得	18
3	入学時に必要な経費（予定額）	18
4	入学料・授業料の免除（高等教育の修学支援新制度）	18
5	奨学金制度	18
6	修了後の進路実績	19

# 令和7年度専攻科学生募集要項

## 1 鈴鹿工業高等専門学校専攻科について

### (1) 専攻科の設置及び改組

高等専門学校制度は、工業技術の発展を支える実践的技術者の養成を目指す高等教育機関として昭和37年に創設されました。平成3年7月「学校教育法の一部を改正する法律」に基づき、主として高等専門学校を卒業した方を対象に、より高度な教育・研究指導を行い、研究開発能力、創造力をもった実践的技術者を育成するとともに、社会人技術者を対象にリフレッシュ教育を行うことをも目的として専攻科制度が創設されました。本校専攻科は、平成5年4月に電子機械工学専攻及び応用物質工学専攻の2専攻で編成され設置されました。

平成29年4月、専攻科の高度化を図るため、異分野の融合・複合化により境界領域的な新分野に対し、各専門分野で培った高い技術を発展させるとともに、次世代の新技术を創成できる広い視野と幅広い知識を有した創造的実践的技術者を育成するため、1専攻（総合イノベーション工学専攻）3コース（環境・資源コース、エネルギー・機能創成コース、ロボットテクノロジーコース）に改組しました。

### (2) 専攻科の教育方針

科学技術の高度化と国際化の進展により、技術者教育を担う高等専門学校には、新たな展開が求められています。技術の高度化・融合化を踏まえ、高度な専門技術・研究開発能力と共に多分野の幅広い基礎技術をあわせもち、さらに、優れた倫理観、グローバル観を身につけた技術者の輩出が強く望まれています。このため、グローバルエンジニアプログラムを設置し、グローバルに通用する高度な技術を持ち、リーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。

そこで、本校専攻科では、次のような教育方針に基づき、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者の育成をめざしています。

- ① 幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者の育成
- ② 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者の育成
- ③ 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者の育成
- ④ 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者の育成

## 2 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

### (1) 求める志願者像

- (1) 科学技術の発展に寄与する意欲のある人
- (2) 自らの向上をめざして継続的に自己学習を行う意欲・適性のある人
- (3) 論理的に物事を考える適性を持つ人
- (4) 豊かな想像力を持ち、何事にも積極的に挑戦する意欲・適性のある人
- (5) 広い視野を持ち、将来、国際社会で活躍する意欲・適性のある人

## (2) 入学者選抜方針

本校専攻科では、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者の育成を目的とし、専攻科修了時にこの目的を達成できる高い可能性をもつ学生の選抜を基本とします。

このため、学校長等の推薦による選抜及び社会人特別選抜においては、科学技術の発展や国際社会への貢献に向けて継続的に学習しようとする意欲、論理的思考能力などの適性、専門分野に関する基礎知識などを、推薦書（社会人特別選抜の場合は業績調書）及び調査書の内容と面接試験により総合評価します。

学力選抜においては、グローバルに活躍できる実践的技術者となるために必要な基礎的知識をTOEIC (Test of English for International Communication : TOEIC IPを含む) またはTOEFL (Test of English as a Foreign Language) iBT のスコアと数学の筆記試験により評価し、調査書の内容による意欲、適性、人物及び専門基礎知識の評価と併せて総合評価します。

## 3 専攻の入学定員及びコース等説明

### (1) 入学定員

総合イノベーション工学専攻	24名
環境・資源コース	
エネルギー・機能創成コース	
ロボットテクノロジーコース	

### (2) コース説明

#### 環境・資源コース

地球温暖化や酸性雨に代表される環境問題、自然環境破壊抑制のための環境保全、バイオマス・鉱物・水・生物・海洋等各種天然資源の有効利用、環境調和型資源リサイクルによる循環型社会の構築等を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を育成します。

#### エネルギー・機能創成コース

次世代の新エネルギー開発、その安定供給、輸送や利用における効率化や関連機能材料等に関わる技術開発を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を育成します。

#### ロボットテクノロジーコース

自身の専門分野を軸としてロボットを構成する技術を高度化し、イノベーションの創出や革新的な応用技術を社会に還元するために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技

術者を育成します。

### (3) 先端融合テクノロジー連携教育プログラム

本プログラムは、本校と豊橋技術科学大学が互いの強みをもつ教育資源を有効活用しつつ、地域等の社会で活躍することができる分野横断型の実践的技術者を育成することを目的とし、連携・協力して実施するものです。本プログラム履修者は、本校専攻科と豊橋技術科学大学の双方に在籍し、それぞれの課程を修了することにより、本校専攻科の修了証書と豊橋技術科学大学の卒業証書(学士の学位記)が授与されます。

出願にあたっては、「11 先端融合テクノロジー連携教育プログラムの募集について」をご覧ください。

### (4) グローバルエンジニアプログラム

グローバルエンジニアとして求められている英語力, 交渉力, 企画力, 実行力, 経営力, マネージメント力, さらに専門分野の異なる学生が共に課題に取り組むことで順応力および強靭さ, 優れた人間力を涵養します。専攻科修了時において、「英語表現論」, 「グローバル・リーダー論」, 「国際関係論」, 「国際インターンシップ」の単位を修得し, TOEIC スコア 650 以上であれば, 本プログラムを修了できます。

## 4 修業年限

2年

## 5 募集人員

総合イノベーション工学専攻 24名

## 6 選抜の方法

入学者の選抜は、次のとおり行います。

選 抜 区 分	選 抜 期 日
推薦による選抜	令和6年5月18日(土)
社会人特別選抜	
学力試験による選抜	令和6年6月15日(土)

## 7 推薦による選抜

### (1) 出願資格

令和7年3月に高等専門学校卒業見込みの者で、本校以外の高等専門学校在籍者にあつては学校長が、本校在籍者にあつては学科長が学業、人物ともに優れていると認め推薦する者

**(2) 入学願書受付**

期 間	令和6年5月7日（火）から5月10日（金）まで。 郵送の場合も5月10日（金）午後4時30分必着とします。
受付時間	午前9時から午後4時30分まで。
場 所	〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町 鈴鹿工業高等専門学校 学生課入試係

**(3) 出願手続**

①検定料の振込（振込期間：令和6年4月30日（火）～5月10日（金））

出願者は、本校所定の「振込依頼票」に必要事項を記入し、**検定料 16,500 円**を添えて最寄りの銀行から本校指定の送り先（振込依頼票に記載）へ電信扱いで振り込んでください（現金自動預払機（ATM）による振込は不可）。ゆうちょ銀行から振り込む場合は、振込依頼票が異なります。詳細は巻末をご覧ください。

振込後、次の出願書類を願書受付期間中に持参又は郵送してください。

②出願に必要な書類等

書 類 等	摘 要
入 学 願 書	本校所定の様式（推薦選抜用）に必要事項を記入してください。
写 真 票	写真票に貼る写真は、出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・正面・脱帽・無背景のものとしします。（縦4cm×横3cm）
受 験 票	受験票（推薦選抜用）の氏名欄は必ず自署してください。
調 査 書 1 （成績証明書）	本校所定の様式を使用し、在籍学校長が作成したもの。 成績証明書を添付すること。
調 査 書 2	本校所定の様式を使用し、志願者が作成したもの。
推 薦 書	本校所定の様式を使用し、在籍学校長が作成したもの。 ただし、鈴鹿工業高等専門学校を卒業見込みの者は、在籍学科長が作成したもの。
TOEIC（または TOEFL iBT） スコアの原本	出願2年以内に受験した、TOEIC公開テスト結果（Official Score Certificate）又はTOEIC IPテスト結果（Score Report）、TOEFL iBT 公式スコアレポート（Official Score Report）の原本。 原本は、受験票送付の際に返還します。
受験票送付用封筒 （長3封筒）	志願者の郵便番号・住所・氏名を明記し、694円（速達・簡易書留郵便料を含む）切手を貼ったもの。 （願書を直接持参する場合は不要です）
そ の 他	日本国籍を有しない者は、市区町村長発行の外国人登録証明書（在留資格が明示されたもの）又は在留カードの写し（表・裏）を提出してください。

**【出願上の注意事項】**

ア 出願書類を郵送する場合は、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書きし、「書留郵便」又は「簡易書留郵便」で出願期間内に必着するよう手続きを行ってください。

イ 出願書類に記入漏れ等の不備がある場合は受理しません。

- ウ 書類提出後は、記載事項の変更は認めません。
- エ TOEIC（または TOEFL iBT）スコアを除く受理した書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- オ 払込済の検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返金できません。
- ・検定料を納付したが出願しなかった場合
  - ・検定料を重複して納付した場合
- 上記に該当する場合は、速やかに本校学生課入試係へ連絡願います。
- カ 出願書類に事実と異なる記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。

#### （４）選抜の実施方法

入学者の選抜は、在籍学校長等からの推薦書と調査書の審査、面接試験の結果を総合して行います。アドミッション・ポリシーに則り、適正、意欲、人物及び専門基礎知識の観点から、書類の審査を120点満点、面接の結果を80点満点、合わせて200点満点で評価します。

#### （５）面接試験日時及び場所

- ① 日 時 令和6年5月18日（土）指定された時間
- ② 場 所 鈴鹿工業高等専門学校

#### （６）合格者の発表

令和6年5月24日（金）午前10時に本校ウェブページへ合格者の受験番号を掲載するとともに、同日、合格者あてに合格通知書を発送します。

（本校ウェブページに障害等があった場合は本校内に掲示等で対応します。）

ウェブページアドレス [https:// www.suzuka-ct. ac. jp](https://www.suzuka-ct.ac.jp)

電話等による可否の問い合わせはご遠慮ください。

#### （７）入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、令和6年6月7日（金）午後5時までに「入学確約書」を提出してください。期限までに「入学確約書」を提出しない者は、本校に入学の意思がないものとして取り扱います。

#### （８）「推薦による選抜」に合格しなかった者の取扱い

「推薦による選抜」の結果合格しなかった者で「学力試験による選抜」を希望する者は、再度本校所定の「振込依頼票」に必要事項を記入し、**検定料16,500円**を添えて最寄りの銀行から本校指定の送り先（振込依頼票に記載）へ電信扱いで振り込む必要があります（現金自動預払機（ATM）による振込は不可）。

振込後、「学力試験による選抜」にかかる出願手続きを行ってください。

## (9) 入学手続

入学予定者あてに、令和7年3月頃通知します。

## (10) その他の注意事項

- ① 受験票は、入学願書を受理したのち本人あてに交付又は郵送します。  
この受験票は試験当日必ず持参してください。
- ② 出願書類提出後、住所又は郵便受取先を変更したときは、ただちに、本校学生課入試係に受験番号及び氏名を明記のうえ届け出てください。

# 8 社会人特別選抜

## (1) 出願資格

出願時において社会人としての経験を1年以上有する者で、次のいずれかに該当する者

- ① 高等専門学校を卒業した者
- ② 短期大学を卒業した者
- ③ 学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程を修了した者
- ④ 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
- ⑤ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者

## (2) 入学願書受付

期 間	令和6年5月7日（火）から5月10日（金）まで。 郵送の場合も5月10日（金）午後4時30分必着とします。
受付時間	午前9時から午後4時30分まで。
場 所	〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町 鈴鹿工業高等専門学校 学生課入試係

## (3) 出願手続

- ① 検定料の振込（振込期間：令和6年4月30日（火）～5月10日（金））  
出願者は、本校所定の「振込依頼票」に必要事項を記入し、**検定料16,500円**を添えて最寄りの銀行から本校指定の送り先（振込依頼票に記載）へ電信扱いで振り込んでください（現金自動預払機（ATM）による振込は不可）。ゆうちょ銀行から振り込む場合は、振込依頼票が異なります。詳細は巻末をご覧ください。  
振込後、次の出願書類を願書受付期間中に持参又は郵送してください。

## ② 出願に必要な書類等

書 類 等	摘 要
入 学 願 書	本校所定の様式(社会人選抜用)に必要事項を記入してください。
写 真 票	写真票に貼る写真は、出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・正面・脱帽・無背景のものとしします。(縦4cm×横3cm)
受 験 票	受験票(社会人選抜用)の氏名欄は必ず自署してください。
調 査 書 1 (成績証明書)	本校所定の様式を使用し、出身学校長又は学長が作成したもの。成績証明書を添付すること。
調 査 書 2	本校所定の様式を使用し、志願者が作成したもの。
業 績 調 書	本校所定の様式(600字詰)に、次により本人が記入してください。企業在籍者及び企業退職者は、そこでの勤務業績。これ以外の者は、出身学校における業績(卒業研究等)の概要。
TOEIC (または TOEFL iBT) スコアの原本	出願2年以内に受験した、TOEIC公開テスト結果(Official Score Certificate)又はTOEIC IPテスト結果(Score Report), TOEFL iBT 公式スコアレポート(Official Score Report)の原本。原本は、受験票送付の際に返還します。
受 験 承 諾 書	本校所定の様式を使用し、所属の長が作成したもの。(入学時に企業等に在職のまま入学し専攻科修了後、復職する者のみ提出してください。入学時に企業等を退職して入学する者は不要)
受 験 票 送 付 用 封 筒 (長3封筒)	志願者の郵便番号・住所・氏名を明記し、694円(速達・簡易書留郵便料を含む)切手を貼ったもの。 (願書を直接持参する場合は不要です)
そ の 他	日本国籍を有しない者は、市区町村長発行の外国人登録証明書(在留資格が明示されたもの)又は在留カードの写し(表・裏)を提出してください。

## 【出願上の注意事項】

- ア 出願書類を郵送する場合は、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書きし、「書留郵便」又は「簡易書留郵便」で出願期間内に必着するよう手続きを行ってください。
- イ 出願書類に記入漏れ等の不備がある場合は受理しません。
- ウ 書類提出後は、記載事項の変更は認めません。
- エ TOEIC (または TOEFL iBT) スコアを除く受理した書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- オ 払込済の検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返金できません。
- ・検定料を納付したが出願しなかった場合
  - ・検定料を重複して納付した場合
- 上記に該当する場合は、速やかに本校学生課入試係へ連絡願います。
- カ 出願書類に事実と異なる記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。

#### (4) 選抜の実施方法

入学者の選抜は、出身校の調査書と勤務先等での業績調書の審査、面接試験の結果を総合して行います。アドミッション・ポリシーに則り、適正、意欲、人物及び専門基礎知識の観点から、書類の審査を120点満点、面接の結果を80点満点、合わせて200点満点で評価します。

#### (5) 面接試験日時及び場所

- ① 日 時 令和6年5月18日(土) 指定された時間
- ② 場 所 鈴鹿工業高等専門学校

#### (6) 合格者の発表

令和6年5月24日(金)午前10時に本校ウェブページへ合格者の受験番号を掲載するとともに、同日、合格者あてに合格通知書を発送します。

(本校ウェブページに障害等があった場合は本校内に掲示等に対応します。)

ウェブページアドレス [https:// www.suzuka-ct. ac. jp](https://www.suzuka-ct.ac.jp)

電話等による合否の問い合わせはご遠慮ください。

#### (7) 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、令和6年8月19日(月)午後5時までに「入学確約書」を提出してください。なお、期限までに「入学確約書」を提出しない者は、本校に入学の意思がないものとして取り扱います。

#### (8) 「社会人特別選抜」に合格しなかった者の取扱い

「社会人特別選抜」の結果合格しなかった者で「学力試験による選抜」を希望する者は、再度本校所定の「振込依頼票」に必要事項を記入し、検定料16,500円を添えて最寄りの銀行から本校指定の送り先(振込依頼票に記載)へ電信扱いで振り込む必要があります(現金自動預払機(ATM)による振込は不可)。

振込後、「学力試験による選抜」にかかる出願手続きを行ってください。

#### (9) 入学手続

入学予定者あてに、令和7年3月頃連絡します。

#### (10) その他の注意事項

- ① 受験票は、入学願書を受理したのち本人あてに交付又は郵送します。  
この受験票は試験当日必ず持参してください。
- ② 出願書類提出後、住所又は郵便受取先を変更したときは、ただちに本校学生課入試係に受験番号及び氏名を明記のうえ届け出てください。

## 9 学力試験による選抜

### (1) 出願資格

次のいずれかに該当する者

- ① 高等専門学校を卒業した者又は令和7年3月高等専門学校を卒業見込みの者
- ② 短期大学を卒業した者又は令和7年3月短期大学を卒業見込みの者
- ③ 学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程を修了した者又は令和7年3月専修学校の専門課程を修了見込みの者
- ④ 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者又は令和7年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は令和7年3月までに修了見込みの者
- ⑥ その他、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると本校専攻科において認められた者

なお、機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科又はこれらと同等の内容の教育課程を履修している者が望ましい。

### (2) 入学願書受付

期 間	令和6年5月28日（火）から5月31日（金）まで。 郵送の場合も5月31日（金）午後4時30分必着とします。
受付時間	午前9時から午後4時30分まで。
場 所	〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町 鈴鹿工業高等専門学校 学生課入試係

### (3) 出願手続

- ① 検定料の振込（振込期間：令和6年5月20日（月）～5月31日（金））  
出願者は、本校所定の「振込依頼票」に必要事項を記入し、**検定料16,500円**を添えて最寄りの銀行から本校指定の送り先（振込依頼票に記載）へ電信扱いで振り込んでください（現金自動預払機（ATM）による振込は不可）。ゆうちょ銀行から振り込む場合は、振込依頼票が異なります。詳細は巻末をご覧ください。

振込後、次の出願書類を願書受付期間中に持参又は郵送してください。

- ② 出願に必要な書類等

書 類 等	摘 要
入 学 願 書	本校所定の様式（学力選抜用）に必要事項を記入してください。

写 真 票	写真票に貼る写真は、出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・正面・脱帽・無背景のものとしします。(縦4cm×横3cm)
受 験 票	受験票(学力選抜用)の氏名欄は必ず自署してください。
調 査 書 1 (成績証明書)	本校所定の様式を使用し、在籍(出身)学校長又は学長が作成したもの。成績証明書を添付すること。
調 査 書 2	本校所定の様式を使用し、志願者が作成したもの。
TOEIC (または TOEFL iBT) スコアの原本	出願2年以内に受験した、TOEIC公開テスト結果(Official Score Certificate)又はTOEIC IPテスト結果(Score Report), TOEFL iBT 公式スコアレポート(Official Score Report)の原本。 原本は、受験票送付の際に返還します。
受験票送付用 封筒 (長3封筒)	志願者の郵便番号・住所・氏名を明記し、694円(速達・簡易書留郵便料を含む)切手を貼ったもの。 (願書を直接持参する場合は不要です)
そ の 他	日本国籍を有しない者は、市区町村長発行の外国人登録証明書(在留資格が明示されたもの)又は在留カードの写し(表・裏)を提出してください。

## 【出願上の注意事項】

- ア 出願書類を郵送する場合は、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書きし、「書留郵便」又は「簡易書留郵便」で出願期間内に必着するよう手続きを行ってください。
- イ 出願書類に記入漏れ等の不備がある場合は受理しません。
- ウ 書類提出後は、記載事項の変更は一切認めません。
- エ TOEIC (または TOEFL iBT) スコアを除く受理した書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- オ 払込済の検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返金できません。
- ・検定料を納付したが出願しなかった場合
  - ・検定料を重複して納付した場合
- 上記に該当する場合は、速やかに本校学生課入試係へ連絡願います。
- カ 出願書類に事実と異なる記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。

## (4) 選抜の実施方法

入学者の選抜は、筆記試験(数学)、TOEIC スコア及び書類審査の結果を総合して行います。

### ① 筆記試験

数 学 (主な出題範囲は以下のとおりとする。)

微 分・・・一変数及び多変数の微分とその応用

積 分・・・一変数及び多変数の積分とその応用

微分方程式・・・常微分方程式

線形代数・・・ベクトルと図形、行列と行列式、複素数平面

基礎数学・・・方程式と不等式、場合の数、確率等

② 評価の方法

筆記試験（数学）及びTOEIC（またはTOEFL iBT）スコアは、各100点満点で評価します。調査書1，2は、アドミッション・ポリシーに則り、適正、意欲、人物及び専門基礎知識の観点から100点満点で評価します。筆記試験（数学），TOEIC（TOEFL iBT）スコア及び調査書1，2の評価を合わせて300点満点で評価します。

なお、TOEIC および TOEFL iBT スコアの換算方法は以下に例示します。

TOEIC	290 以下	300	320	350	380	400	450	500	550	600	700	800	860 以上
TOEFL iBT	30 以下	32	33	36	39	40	46	52	57	62	76	88	98
換算点	0	13	28	44	56	60	65	70	75	80	88	96	100

**（５）試験日時及び場所**

① 日 時

期 日	区 分	時 間
令和6年6月15日（土）	数 学	10：30～12：00

② 場 所

鈴鹿工業高等専門学校

**（６）合格者の発表**

令和6年6月21日（金）午前10時に本校ウェブページへ合格者の受験番号を掲載するとともに、同日、合格者あてに合格通知書を発送します。

（本校ウェブページに障害等があった場合は本校内に掲示等で対応します。）

ウェブページアドレス [https:// www.suzuka-ct. ac. jp](https://www.suzuka-ct.ac.jp)

電話等による可否の問い合わせはご遠慮ください。

**（７）入学確約書の提出**

合格通知を受けた者は、令和年9月20日（金）午後5時までに「入学確約書」を提出してください。なお、期限までに「入学確約書」を提出しない者は、本校に入学の意思がないものとして取り扱います。

**（８）入学手続**

入学予定者あてに、令和7年3月頃連絡します。

## (9) その他の注意事項

- ① 受験票は、入学願書を受理したのち本人あてに交付又は郵送します。  
この受験票は試験当日必ず持参してください。
- ② 受験上の注意は、受験票に記載していますが、その他の注意事項は当日試験場に掲示します。
- ③ 出願書類提出後、住所又は郵便受取先を変更したときは、ただちに、本校学生課入試係に受験番号及び氏名を明記のうえ届け出てください。

# 10 追試験の実施について

## (1) 受験資格

推薦による選抜、社会人特別選抜及び学力試験による選抜の志願者が、感染症等を理由とし、本試験を受験できない場合の対応として追試験を実施します。

### ① 追試験受験の申請対象者

追試験受験の申請対象者は次のいずれかに該当する志願者としてします。

ア. 学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号。以下「施行規則」という。）第十八条に定める感染症に罹患、または罹患している疑いがあり、本試験を受験できない者。

イ. その他、受験者自身の責めに帰することができない理由で本試験を受験できず、追試験の受験を申請した者で、校長がその申請を認めた者

※アに示す本試験を受験できない事由は、学校長等又は医療機関による証明等により、校長が確認するものとする。

※アに示す本試験を受験できない事由を認める期間については、施行規則第十九条に定める出席停止の期間の基準を原則とする。

### ② 追試験受験の申請手続

本試験開始前までに本校学生課入試係へ欠席連絡のうえ追試験受験希望を申し出て、担当者から指示を受けてください。なお、本試験開始前までに連絡のない場合は、追試験受験の意思がないものとして取り扱います。

## (2) 推薦による選抜及び社会人特別選抜における追試験

### ① 面接試験日時及び場所

日 時 令和6年5月29日（水）午後3時30分

場 所 鈴鹿工業高等専門学校

### ② 追試験の合格者発表

令和6年5月31日（金）午前10時に本校ウェブページへ合格者の受験番号を掲載するとともに、同日、合格者あてに合格通知書を発送します。

（本校ウェブページに障害等があった場合は本校内に掲示等で対応します。）

ウェブページアドレス [https:// www.suzuka-ct. ac. jp](https://www.suzuka-ct.ac.jp)

電話等による合否の問い合わせはご遠慮ください。

### ③ 入学確約書の提出

本試験と同様とします。

### (3) 学力試験による選抜における追試験

① 日 時

期 日	区 分	時 間
令和6年7月13日(土)	数 学	10:30~12:00

② 場 所

鈴鹿工業高等専門学校

③ 追試験の合格者発表

令和6年7月19日(金)午前10時に本校ウェブページへ合格者の受験番号を掲載するとともに、同日、合格者あてに合格通知書を発送します。

(本校ウェブページに障害等があった場合は本校内に掲示等で対応します。)

ウェブページアドレス [https:// www.suzuka-ct. ac. jp](https://www.suzuka-ct.ac.jp)

電話等による合否の問い合わせはご遠慮ください。

④ 入学確約書の提出

本試験と同様とします。

## 1 1 先端融合テクノロジー連携教育プログラムの募集について

(1) 出願資格

本校専攻科の入学者選抜検査(推薦)の合格者のうち、本プログラムを希望し、所定の期日までに入学確約書を提出した者

(2) 出願手続

各自で行うこととなります。出願にあたっては、本校指導教員と十分相談のうえ、出願手続きを行ってください。なお、出願の意思がある場合は、入学確約書にその旨を記載のうえ提出してください。

(3) 選抜方法

入学者選抜は、豊橋技術科学大学において実施されます。詳細は豊橋技術科学大学ウェブページをご確認ください。

(4) その他

先端融合テクノロジー連携教育プログラム入学者選抜で不合格となった場合でも、本校専攻科推薦入試合格者は本校専攻科に入学することができます。

## 1 2 入学前に修得した教科内容の確認等について

本校専攻科の教科の受講にあたり、入学者にはあらかじめ定められたいくつかの教科について出身の学校等で修得済みであることが求められています。出身の学科や学校あるいは、選択教科の選択方法によって、これが満足されない可能性がありますので、入学前に、これらの教科について教科書やシラバスなどの提出を求め、修得した内容を確認することがあります。修得内容に不足が存在すると認められる場合は、科目等履修生(有料)などにより単位等を修得する必要があります。

## 1 3 個人情報 の 取扱い について

本校では、入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

## 1 4 入試情報 の 提供 について

本校では、推薦、社会人及び学力による入学者選抜の入学願書受付期間中、適時入学願書の受付状況をウェブページでお知らせします。

## 1 5 入学者選抜 に関する 合理的配慮 の 提供 に関して

本校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び、「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する者は、早めに本校学生課入試係までご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、入学願書提出期限の一か月前を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、学生、学生の保護者及び、在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は入学者選抜の可否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」によって示されている、1) 障害者手帳の種別・等級・区分認定、2) 適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3) 標準化された心理検査等の結果、4) 専門家の所見、5) 出身高専等における支援状況に関する資料、6) 本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

※ 根拠資料に関しては提出の要不要に関しても 入試担当窓口（電話 059-368-1739）までご相談ください。

ご提出いただく根拠資料としての要件を満たしているかどうか、担当係において確認いたします。満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

(お願い)

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で「事前相談」を受けられることをお勧めします。入試後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請なさると、修学に必要な支援

を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の可否判定には一切影響ありません。

## 16 その他

- (1) 入学志願にあたって、出願資格、志望コース等で疑問がある場合は、学生課入試係にお問い合わせください。特に短期大学卒業者（見込みを含む）及び専修学校の専門課程修了者（見込みを含む）は事前に照会されることをおすすめします。
- (2) 第2次募集を行うことがあります。詳細については、令和6年10月4日（金）以降に学生課入試係にお問い合わせください。

# 専攻科入学案内

## 1 教育課程

専攻科の教育課程は、教養科目、コース共通科目及び専門展開科目で構成されています。令和6年4月現在における本校専攻科の教育課程を次表に示します。

教養・コース共通科目

(令和6年度入学)

区分	授業科目	単位数	年次別配当		備考	
			1年次	2年次		
教養科目	必修	技術英語Ⅰ	1	1		
		技術英語Ⅱ	1		1	
		技術者倫理	2	2		
		国際関係論	2		2	
		小計	6	3	3	
	選択	経営学	2		2	2単位以上修得
		言語表現学特論	2		2	
		グローバル・リーダー論	2	2		
		英語表現論	2	2		
		海外語学実習Ⅰ	1		1	
		海外語学実習Ⅱ	2		2	
		海外語学実習Ⅲ	3		3	
		小計	14	4	4	6
	コース共通科目	必修	代数学特論	2	2	
数理解析学			2	2		
環境保全工学			2	2		
信頼性工学			2	2		
応用情報工学			2	2		
センサ工学			2		2	
物性工学			2		2	
小計		14	10	4		
選択		物理学特論	2	2		
		生命工学	2		2	
		インターンシップⅠ	1		1	
		インターンシップⅡ	2		2	
		国際インターンシップⅠ	2		2	
		国際インターンシップⅡ	4		4	
		長期海外インターンシップ	12	12		
		実践工業数学Ⅰ	1		1	
		実践工業数学Ⅱ	1		1	
		特別講義	2		2	開講しないことがある。
		小計	29	14	2	13

区分	授業科目	単位数	年次別配当		備考		
			1年次	2年次			
専門展開科目	必修	総合イノベーション工学輪講	2		2		
		総合イノベーション工学実験	2	2			
		特別研究Ⅰ	8	8			
		特別研究Ⅱ	8		8		
		小計	20	10	10		
	コース必修	海洋環境学	2		2	環境・資源コース	同時開講科目
		次世代エネルギー工学	2		2	エネルギー・機能創成コース	
		実践メカトロニクス	2		2	ロボットテクノロジーコース	
		小計	6	0	6		
	選択	非破壊検査工学	2	2		2単位以上修得	8単位以上修得
		有機化学特論	2	2			
		材料物理学	2	2			
		電気理論特論	2	2			
		流体力学特論	2	2		環境・資源コース 4単位以上修得	
		移動現象論	2	2			
		エネルギー移送論	2		2		
		分子生命科学	2	2			
		有機材料工学	2		2	エネルギー・機能創成コース 4単位以上修得	
		生体機能工学	2		2		
		環境科学特論	2		2		
		環境調和材料	2		2		
		制御機器工学	2	2		ロボットテクノロジーコース 4単位以上修得	
		エネルギー移送論	2		2		
		分子生命科学	2	2			
		移動現象論	2	2			
		材料強度工学	2		2		
		生体機能工学	2		2		
		環境科学特論	2		2		
		環境調和材料	2		2		
	IoTシステム特論	2		2			
	電子材料特論	2		2			
	制御機器工学	2	2				
流体力学特論	2	2					
材料強度工学	2		2				
有機材料工学	2		2				
IoTシステム特論	2		2				
電子材料特論	2		2				
小計	32	16	16				
教養科目（必修）開設単位数		6	3	3			
教養科目（選択）開設単位数		14	4	4			
			6				
コース共通科目（必修）開設単位数		14	10	4			
コース共通科目（選択）開設単位数		33	14	2			
			17				
専門展開科目（必修）開設単位数		20	10	10			
専門展開科目（コース必修）開設単位数		6	0	6			
専門展開科目（選択）開設単位数		32	16	16			
開設単位数合計		125	57	45			
			23				
修得単位数		62単位以上	教養科目		必修	6単位	
					選択	2単位以上	
			コース共通科目		必修	14単位	
					必修	20単位	
			専門展開科目		コース必修	2単位	
			選択	8単位以上			

## 2 学士の学位の取得

高等専門学校卒業生等が本校の専攻科で2年以上にわたり62単位以上を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力を有すると認められた場合は、学士（工学）の学位を取得できます。

※ 大学改革支援・学位授与機構の審査手数料・・・32,000円

## 3 入学時に必要な経費（予定額）等

費目	金額	備考
入学料	84,600円	入学手続き時に納入
授業料	117,300円	年額234,600円の前期分
教科書代	約40,000円	

- ※1 上記の他、教育後援会会費（前期分15,000円（変更予定）及び入会金10,000円）、傷害共済会費（1年分500円）、日本スポーツ振興センター保護者負担金（1年分1,550円）、諸経費積立金（12,500円）等が必要です。
- ※2 在学中に授業料改正が行われた場合には、新授業料を適用するスライド制が導入されます。
- ※3 専攻科生は学寮に入寮することはできません。

## 4 入学料・授業料の免除（高等教育の修学支援新制度）

政府は、意欲ある子供たちの進学を支援するため、「授業料・入学金の減免」と、「返還を要しない給付型奨学金」の大幅拡充により、大学、短期大学、高等専門学校、専門学校を無償化する方針を決定しました。世帯収入の基準を満たしていれば、成績だけで判断せず、「学ぶ意欲」があれば支援を受けることができます。また、給付型奨学金の対象となれば、大学・専門学校等の授業料・入学金も免除又は減額されます。

## 5 奨学金制度

日本学生支援機構の規定に基づき、学業・人物ともに優れ、かつ健康であって学費の納付が困難と認められる者に対し、本人の申請に基づき、選考の上、日本学生支援機構から奨学金が貸与される制度等があります。

## 6 修了後の進路実績

専攻科修了後の進路は、大学院への進学又は就職となります。近年は、大学院への推薦入学制度が整備され、進学希望者も増えています。また、就職する学生に対しては679社（令和5年度）もの企業から求人をいただいています。

### 【過去3年間】

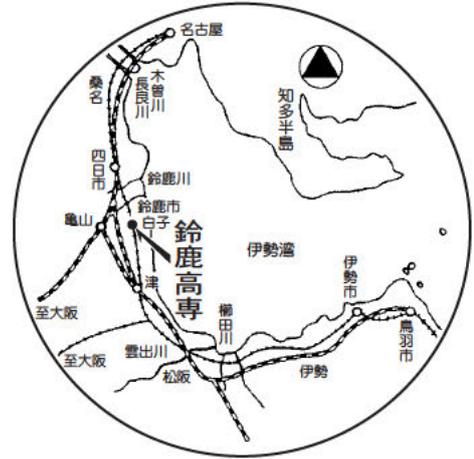
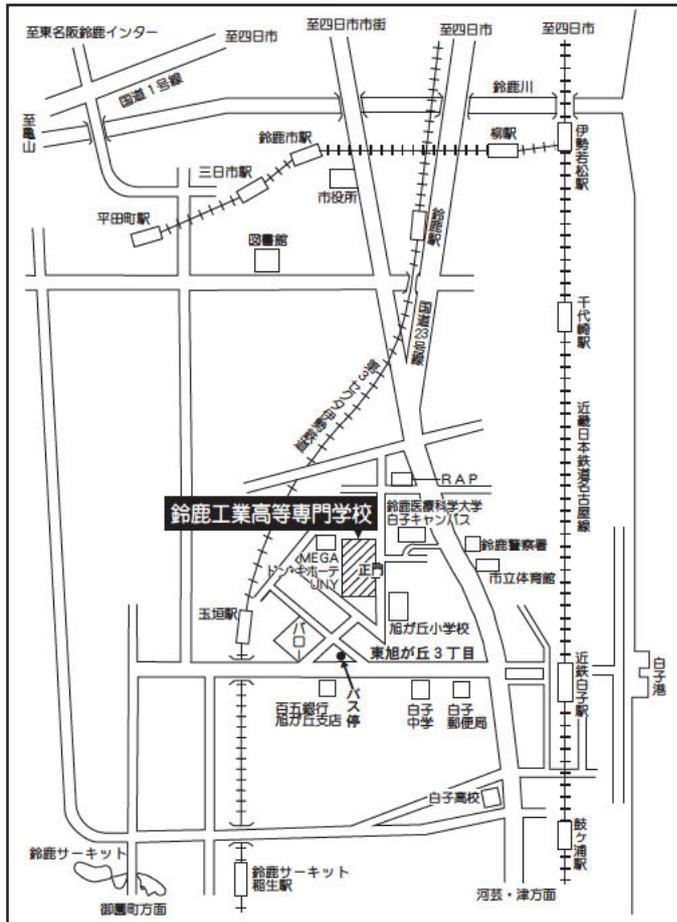
進学先	就 職 先
(国立)	旭化成(株)
東北大学大学院	(株)アットマークテクノ
筑波大学大学院	天野エンザイム(株)
千葉大学大学院	出光興産(株)
東京工業大学大学院	(株)インターネットイニシアティブ
名古屋大学大学院	UBE マシナリー(株)
豊橋技術科学大学大学院	N T Tコムエンジニアリング(株)
京都工芸繊維大学大学院	NTT ビジネスコミュニケーションズ(株)
京都大学大学院	(株)NTT フィールドテクノ
大阪大学大学院	(株)荏原風力機械
九州大学大学院	(株)オートテックジャパン
北陸先端科学技術大学院大学	カゴメ(株)小坂井工場
奈良先端科学技術大学院大学	キヤノンシステムズ(株)
	クラウドエース(株)
(公立)	グローブライド(株)
東京都立大学大学院	サントリースピリッツ(株)
	ジャパンリソグラフィック(株)
	(株)ジェイテクト
	住友電装(株)
	(株)セゾン情報システムズ
	ダイキン工業(株)
	千代田化工建設(株)
	T H K(株)
	(株)デンソー
	(株)東海テクノ
	東芝インフラシステムズ(株)
	(株)ドコモ CS 東海
	(株)トヨタシステムズ
	トヨタ自動車(株)
	(株)トヨタプロダクションエンジニアリング
	西日本電信電話(株)
	日東電工(株)
	日本アエロジル(株)
	伯東(株)
	パナソニック(株)くらしアプライアンス社
	パナソニックインダストリー(株)
	(株)日立社会情報サービス
	ファナック(株)
	(株)FIXER
	(株)F U J I
	(有)保坂精機
	三菱重工業(株)
	森永乳業(株)
	(株)LIXIL

## 入学検定料を郵便局（ゆうちょ銀行）から振り込む場合の注意点

入学検定料は郵便局（ゆうちょ銀行）からも振り込むことができますが、以下の条件を満たす必要がありますので、ご注意ください。

- 1) ゆうちょ銀行から他の金融機関への振込は口座からのみ可能で、**現金による振込は出来ません**。ご利用の際は、『通帳とお届け印』または『キャッシュカード』が必要です。
- 2) ゆうちょ銀行から他の金融機関への振込は募集要項に添付されている振込依頼書を使用することは出来ません。窓口で「ゆうちょ銀行専用の振込依頼書」を受け取り、記入いただく必要があります。
- 3) 振込後は「振込依頼書（お客さま控）」を受領してください。

## 学校の位置図および交通機関



### 検査場までの交通案内

- ・近鉄名古屋線白子駅下車，  
三重交通バス白子駅西口から  
平田町行又は鈴鹿サーキット  
行に乗車約10分，東旭が丘  
3丁目下車，徒歩約7分

### 求める志願者像

- (1) 科学技術の発展に寄与する意欲のある人
- (2) 自らの向上をめざして継続的に自己学習を行う意欲・適性のある人
- (3) 論理的に物事を考える適性を持つ人
- (4) 豊かな想像力を持ち、何事にも積極的に挑戦する意欲・適性のある人
- (5) 広い視野を持ち、将来、国際社会で活躍する意欲・適性のある人

入学試験に関する問い合わせ、出願書類の請求先

独立行政法人 国立高等専門学校機構

## 鈴鹿工業高等専門学校

学生課 入試係

〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町

TEL 059-368-1739 (学生課入試係)

FAX 059-368-1738

<https://www.suzuka-ct.ac.jp>